

高校アーチェリー会報

第7号



全国高体連アーチェリー専門部

1993年4月

目 次

巻頭言	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 部長 松崎 洋右	1
委員長挨拶	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員長 藪内 徹	2
新副部長紹介	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 副部長 鵜飼 泰勇	3
沿革		4
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 顧問・監事一覧		6
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 役員名簿一覧		6
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員名簿一覧		7
学校登録一覧		8
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録状況一覧		18
1992ジュニアチーム海外派遣	水上 英彦・立入 彰修・穂刈美奈子	19
1992全国選手権大会優勝校紹介	横浜高校・横浜学園高校	33
学校紹介	東邦高校・弥富高校・魚津工業高校・高志高校	36
特別寄稿「基本射形の考え方と注意点」	全日本アーチェリー連盟強化部 広瀬 明	46
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届の流れについて		51
登録届記入法		52
指定都道府県番号表		53
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届用紙		54
全国選抜大会栄光のあゆみ 同大会記録		55
日本高校記録		58
F I T A世界記録・日本記録		59
記録収集について		60
高校公認記録規程		63
記録承認申請書様式		65
大会開催地・開催順		67
第26回全国高等学校アーチェリー選手権大会について		68
新・服装規定		70
大会実施要項に記載すべき内容		71
大会プログラム作成の基準について		73
全国高体連アーチェリー専門部規約		79
総務委員会規程		82
競技委員会規程		83
審判委員会規程		84
強化委員会規程		85
事務局規程		86
アーチェリー専門部表彰規程		87
アーチェリー専門部慶弔規程		88
口座番号・斡旋物資についての問い合わせ先		89
あとがき		90

巻 頭 言

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

部 長 松 崎 洋 右



平成4年度の諸行事も、当初の計画の通り立派な成果を収めて無事終了したことを皆さんとともに喜びたいと思います。

全国高等学校アーチェリー選手権大会を頂点とする各種大会での選手の活躍や、全米アーチェリー選手権大会・全日本アーチェリー選手権大会での高校生の活躍等は、高体連アーチェリー専門部の高校スポーツ・体育の水準の高さを示すものであり、また同時に、その裾野の広がり大きさを表すものであって、誠に素晴らしいことと思います。

これも、日頃より学校クラブ活動で平素より生徒と一緒に汗を流して熱心に指導されている先生方の努力の賜物であり、その情熱に対して心から感謝申し上げる次第です。

また高体連専門部として大きな事の一つに、「輝いて見せて下さい青春の汗—in 栃木」のスローガンのもとに開催される、全国高校総合体育大会に初めて参加することがあります。当初計画されていた競技方法とは変更がありますが、ともあれ輝かしい躍進と貴重な体験になることは間違いありません、今後とも関係各方面のご理解もいただいて、この大会を大きく発展させ、高校スポーツ・アーチェリーの基礎を積み上げる必要があります。

高体連がめざしているものは、Kraft「力」とKunst「技」とKlarheit「明朗な精神」であります。そして真紅のマークは、「高い理想、希望に燃える若い情熱」を示しています。どうか高体連アーチェリー専門部に係わる関係各位が、豊かな創造力、逞ましい意志、果敢な挑戦、人生に対する情熱の絶え間ないみずみずしさ、ひたむきさをもって、今後ともますます精進されることを心から期待しています。

委員長 あいさつ

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

委員長 藪内 徹

(滋賀県立伊吹高)



平成5年度は、IH参加という新しいスタート地点に立ち、一つの節目を乗り越え理想に向かう年ではありますが、これまで多くの先輩たちによって切り開かれた学校スポーツとしての規範は、一つ一つの知識・技術・精神面に裏付けを持って、その規範に沿った行き方として引き継がれて

きたものばかりであります。

そこには新たな出発点として、組織運営の基本、地域活動の根本、構成母体の活動こそが肝心で、必然的に組織全体の伸展飛躍のため目標・目的の再確認が、全ての始まりの基であります。本専門的をはじめ同好生徒・指導者ともども、いま何をなすべきか、いかにすべきか。当たり前のことを確かめた活動内容に、理想と品格を求める姿が必要であります。

今日、組織の志においては35都道府県および6地域において高体連との正式な繋がりを持ち、今後より一層の連帯に努めて未加盟県・地域の解消を図らねばなりません。また、競技力の面では高校生アーチャーの国内での活躍も然ることながら、世界をめざす気力・体力・技術の養成練磨に向け、プレーヤーのみならず組織や指導者の強化策を固め、トップの養成と裾野の広がりを図る戦略的拡充が急務であります。

一方、世間の誤解やひんしゆく（ボーガンによる矢カモ事件）を受ける死傷事態、あるいは弓具の紛失・盗難による不測の事故等々、免許がなくても飛び道具を扱えるアーチャーの立場を十二分にかみしめ。アーチェリー活動に関わる全てが真摯な態度と認識のうえに、ますますの発展と活動を望むものであります。

副部長紹介



鵜飼 泰 勇

U KAI TAI YU

(愛知県高体連了専門部長)

愛知高等学校長

- 昭和23年 3月 愛知高等学校卒業
- 昭和30年 3月 駒沢大学大学院修了
- 昭和48年 4月 学校法人 愛知学院
- 昭和61年 4月 学校法人 愛知学院理事に就任
- 平成元年 4月 愛知高等学校長に就任
- 平成元年 4月 愛知県高体連アーチェリー専門部長に就任

沿 革

昭和13年	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカから帰国した、菅 重義氏により日本にアーチェリーが紹介される。
昭和22年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本洋弓会が設立される。(愛好者が増加傾向)
昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本アーチェリー協会設立 (学校への活動用具貸与による援助始まる)
昭和37年	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生を対象とした近畿総合体育大会が、全国で初めて開催される。
昭和43年	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全国高校アーチェリー競技会開催(東大阪市・旧布施市)
昭和44年	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全国高校アーチェリー競技会開催(静岡県)
昭和45年	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会の名称変更「全国高等学校アーチェリー選手権大会」以後より今日に至る。
昭和46年	<ul style="list-style-type: none"> ・選手権参加規定変更・任意参加を各都道府県で2校以内と前年度優勝校に参加を制限。 ・組織を「全国アーチェリー連盟高校部」に改称
昭和49年	<ul style="list-style-type: none"> ・選手権参加規定変更・各都道府県の代表校制に変更、男女1校と前年度優勝校に改正。 ・優勝碑「ダイアナ」(狩猟の女神：ギリシャ神話)が新たに新調される。(川上源一氏と滋賀県協会の格別の好意により、ブロンズ像制定) 【制作者：小谷 謙氏・日展会員・京都府在住】
昭和51年	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織のより一層の明確化が図られる。 ・木村好治氏(青森県アーチェリー協会・元名久井農業高校校長)を初代高校部長に選出。 ・改定組織関係役員決定。
昭和52年	<ul style="list-style-type: none"> ・選手権参加規定変更・団体出場校以外の学校より、個人選手の参加を認める。
昭和53年	<ul style="list-style-type: none"> ・大会開催基準・運営細則に関する全面的な見直し、改正に着手。(協会主導の運営から、高校サイドへの移行に伴い)
昭和54年	<ul style="list-style-type: none"> ・部長、理事長制及び各都道府県ブロックの実情に即した常任理事や代表理事制を取り入れる。初代理事長に中田 昇氏を選出。 ・全国大会記録集創刊
昭和54年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高体連加盟に向け、高体連旗・表彰等の使用申請の働き掛けが始まる。
昭和55年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高体連へ加盟申請する。 ・中田 昇氏 二代目高校部長に選出。 ・総務・競技・強化・事務局の4部門を設定し、積極的な組織運営策の取組が始まる。
昭和56年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国選手権大会開催方針変更・大会経費内部負担の軽減・大会運営への地元高校への協力要請 ・専門部設置県の増加を目指し、各地で運動広がる。

昭和57年 昭和58年	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原朋憲氏三代目高校部長に選出。高体連加盟申請継続 ・全国高体連正式加盟への手順決定される。 ・第1回全国高校選抜大会開催（愛知・森林公園）
昭和59年	<ul style="list-style-type: none"> ◎準加盟として競技種目を扱う。 ◎名義共催と全国総体開催期間中の同時開催禁止。 ◎加盟については、おおむね30都道府県で高体連加盟が審議条件または、40都道府県に於いて 実質的な活動の場合。
昭和61年	<ul style="list-style-type: none"> ・組織拡充と事業実施内容等の統一化に向けて運動強化。 ・ジュニア選手の強化並びに全米選手権大会への派遣事業始まる。
昭和62年	<ul style="list-style-type: none"> ・清本 修氏理事長に選出。 ・学校登録指定番号・ランキング制度開始。 ・会報の発刊始まる。
昭和63年	<ul style="list-style-type: none"> ・アーチェリー専門部設置に向けて、各都道府県高体連事務局への意向調査、協力要請を行う。
平成元年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高体連への加盟承認される。（5月）
平成2年	<ul style="list-style-type: none"> ・新組織による常任委員会開催。（伊豆下田市） ・審判委員会を設置する。 ・全国高体連専門部規約審議、原案決定。 ・里見勝人氏（淑徳高校校長）四代目高校部長に選出。副部長に松崎洋右氏（大宮開成高）猪飼 彰氏（愛工大名電高）の2名を選出。 ・清本 修氏（可部高校）初代専門委員長に選出。 ・中込恵子（山梨・甲府第一高）オリンピック代表へ。
平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ・五代目高校部長 松崎洋右氏（大宮開成高）を選出 ・副部長に越田 稜氏（学習院高）を選出。清本 修氏退職にともない、4月より藪内徹氏（伊吹高校）が専門委員長を代行する。
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 藪内徹氏（伊吹高校）2代目専門委員長に選出。 ・7月 第1回ジュニア世界選手権大会（ノルウェー）へ選手派遣。 ・4月 猪飼彰氏顧問に。鵜飼泰勇氏（愛知高校）を副部長に選出。

全国高等学校体育連盟ア—チェリ—専門部顧問・監事

平成5年・6年

役職名	氏名	勤務先	学校名	電話	F A X
顧問	木村 好治	☎039-15青森県三戸郡五戸町字天満後46	元全国高校部長		
	小笠原朋憲	☎153 東京都目黒区駒場1-35-32	元全国高校部長	03-3467-2130	
	里見 達人	☎174 東京都板橋区前野町5-14-1	元全国高校部長	03-3969-7411	
	清本 修	☎731-03広島県高田郡八千代町上根827-2	前専門委員長	0826-52-3606	
	猪飼 彰	☎444 岡崎市岡町東神馬崎南側33-43	前全国高校副部長	045-751-6941	
監事	監査 若林 武正	関 東 ☎235 横浜市磯子区岡村2-4-1	横浜学園高	045-751-6941	
	監査 神谷 育考	近 畿 ☎602 京都市上京区今出川通寺町西入	同志社女子高	075-251-4305	

全国高等学校体育連盟ア—チェリ—専門部役員名簿

平成5年・6年

役職名	氏名	勤務先	学校名	電話	F A X
部長	松崎 洋右	☎330 埼玉県大宮市堀之内1-615	大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
副部长	越田 稔	☎171 東京都豊島区目白1-5-1	学習院高等科	03-3986-0221	03-5992-1016
	鶴飼 泰勇	☎464 名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高校	052-721-1521	052-723-2254
委員長	藪内 徹	近 畿 ☎521-02滋賀県坂田郡山東町朝日302	伊吹高	0749-55-2350	0749-55-2778
副委員長	総務強化 田中 康彦	東 海 ☎465 名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高	052-721-1521	052-723-2254
	競技審判 雨宮建次郎	関 東 ☎153 東京都目黒区駒場1-35-32	東京工業高	03-3467-2130	03-3467-2138
常任委員	総務委員長 吉田 五衛	北信越 ☎910 福井市御幸2-25-8	高志高	0776-24-5175	0776-24-5177
	競技委員長 水野慎一郎	東 海 ☎464 名古屋市千種区若水3-2-12	愛知工大名電高	052-721-0311	052-722-8302
	審判委員長 嶋守 英敏	東 北 ☎034 青森県十和田市相坂字高清水78	三本木農業高	0176-25-2215	0176-23-5341
	強化委員長 水上 英彦	東 海 ☎416 静岡県富士市平垣町1-1	富士見高	0545-61-0250	0724-63-5040
	総務員 佐幸 修	近 畿 ☎543 大阪市阿倍野区天王寺町南2-8-19	大阪女子商高	06-719-2801	06-714-0045
	競技員 横山 幹夫	北信越 ☎916 鯖江市熊田町10-7	丹南高	0778-62-2112	0778-62-2102
	競技員 金川 真二	中 国 ☎731-02広島市安佐北区可部3-15-25	可部高	082-814-2032	082-814-2140
	競技員 住友 和雄	四 国 ☎770 徳島市北矢三町2-1-1	徳島工業高	0886-31-4185	0886-31-1110
	審判員 勢司 凱雄	北海道 ☎062 札幌市豊平区月寒東1-3	札幌月寒高	011-851-3111	011-351-3112
	審判員 日野 正晴	東 北 ☎997 山形県鶴岡市若葉町26-31	鶴岡南高	0235-22-0061	0235-24-5941
	強化員 堤 幸祐	九 州 ☎874-01別府市大字野田78	別府女子短大付属	0977-67-6908	0977-67-8255
	事務局	局長 宮崎 利悞	関 東 ☎330 埼玉県大宮市堀ノ内1-615	大宮開成高	048-641-7161
局員 小坂 純彰		関 東 ☎171 東京都豊島区目白1-5-1	学習院高	03-3986-0221	03-5992-1016
局員 松宮 博		関 東 ☎344 埼玉県春日部市上大増新田213	春日部共栄高	048-737-7611	048-737-8093

全国高等学校体育連盟ア—チェリ—専門部委員名簿

平成5年・6年

都道府県名	氏名	学校名	〒	所在地	電話	F A X
1 北海道	勢司凱雄	道立 月 寒 高	062	札幌市豊平区月寒東13	011-851-3111	011-351-3112
2 青 森	嶋守英敏	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3 岩 手	佐藤邦明	県立 盛岡工業高	020	紫波郡都南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134
4 宮 城	遠藤誠一	市立 仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	
5 秋 田	秋田ア—チェリ—協	佐藤 徹 方	013-01	平鹿群平鹿町清水の上95-3	0182-24-2464	
6 山 形	日野正晴	県立 鶴 岡 南 高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
7 福 島	本間俊弘	県立 田 村 高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-3385
8 茨 城	奥倉 裕	私立 水 城 高	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	0292-48-3841
9 栃 木	後藤明男	県立 馬 頭 高	329-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
10 群 馬	佐藤 功	県立 沼 田 女 子 高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	
11 埼 玉	宮崎利帳	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
12 千 葉	西尾 顕	県立 京 葉 高	290	市原市島野222	0436-22-2196	
13 東 京	雨宮建次郎	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2138
14 神奈川	若林武正	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
15 山 梨	吉成 謙	県立 甲 府 第 一 高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16 新 潟	坂西精一	県立 長 岡 工 業 高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	
17 長 野	小山田保	県立 篠ノ井高	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	
18 富 山	浦田照行	県立 魚 津 工 業 高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
19 石 川	中村 司	県立 金 沢 向 陽 高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
20 福 井	横山幹夫	県立 丹 南 高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21 静 岡	水上英彦	富 士 見 高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
22 愛 知	荻原茂樹	弥 富 高	498	海部郡弥富町稲吉2丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
23 三 重	加藤 多	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村1番地	0598-29-4151	0598-29-6944
24 岐 阜	南 公博	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
25 滋 賀	富永雅博	県立 虎 姫 高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
26 京 都	神谷育孝	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入	075-251-4305	075-251-4308
27 大 阪	佐幸 修	大阪女子商業高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28 兵 庫	荒木亨典	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070
29 奈 良	高見喬宏	県立 奈 良 高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30 和歌山	山岡正樹	県立 貴 志 川 高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
31 鳥 取	山根俊一	県立 倉 吉 農 業 高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1341
32 島 根	中村清志	県立 松 江 東 高	690	松江市西川津町宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
33 岡 山	後藤 浩	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
34 広 島	金川真二	県立 可 部 高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-815-4781
35 山 口	坂本憲昭	県立 下 松 高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	
36 香 川	吉良洋平	県立 高 松 西 高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
37 徳 島	住友和雄	県立 徳 島 工 業 高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
38 愛 媛	愛媛ア—チェリ—協	岡田 光彦 方	791	松山市高浜町1-1432-24	0899-52-3200	
39 高 知	田所 勇	私立 高 知 高	780	高知市北端町100	0888-40-1111	0888-44-7578
40 福 岡	藤川 毅	県立 柏 陵 高	815	福岡市南区柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
41 佐 賀	長谷川紘之	県立 佐 賀 農 芸 高	849-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	
42 長 崎	大塚敬輔	県立 大 村 工 業 高	856	大村市森園1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
43 熊 本	長野 浩	熊本フェイス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44 大 分	堤 幸祐	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
45 宮 崎	宮崎ア—チェリ—協		880	宮崎市宮田町1-11 宮崎自治会館内	0985-28-5155	
46 鹿 児 島	東 哲男	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	
47 沖 縄	島袋盛範	県立 宜 野 湾 高	901-22	宜野湾市真志喜2丁目25番1号	098-897-1020	

学校登録一覧表

(太字都道県名は、高体連加盟)

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
北海道 18校	01H01	道立 札幌 月 寒 高	062	札幌市豊平区月寒東1条3丁目	011-851-3111	011-851-3112
	01H02	市立 札幌 啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
	01H03	道立 小樽 潮 陵 高	047	小樽市潮見台2丁目1番1号	0134-22-0754	0134-22-5954
	01H04	函館ラサール高	041	函館市日吉町1丁目12番1号	0138-52-0365	0138-54-0365
	01H05	道立 室 蘭 清 水 丘 高	051	室蘭市増市町2丁目	0143-23-1221	0143-23-1221
	01H06	道立 登 別 南 高	059	登別市青葉町42番地1	0143-85-8586	0143-85-8586
	01H07	道立 旭 川 南 高	071-01	旭川市西神楽4線6号	0166-65-8770	0166-65-8772
	01H08	道立 清 水 高	089-01	上川郡清水町北2条西2丁目2番地	01566-2-2156	01566-2-2156
	01H09	道立 帯 広 三 条 高	080-24	帯広市西23条2丁目12番地	0155-37-5501	0155-37-5503
	01H10	道立 帯 広 工 業 高	080	帯広市南町南8線西24-1	0155-48-5650	0155-48-2680
	01H11	道立 幕 別 高	089-06	中川郡幕別町南町81番地	0155-54-2977	0155-54-2159
	01H12	道立 札 幌 西 高	064	札幌市中央区宮ノ森4条8丁目1番地	011-611-4401	011-611-4403
	01H13	道立 札 幌 啓 成 高	004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目6-1	011-898-2311	011-898-2313
	01H14	道立 札 幌 開 成 高	065	札幌市東区北22条東21丁目	011-781-8171	011-781-5629
	01H15	道立 旭 川 北 高	070	旭川市花咲町3丁目	0166-51-4620	0166-51-2818
	01H16	道立 旭 川 工 業 高	078	旭川市西神楽3線5号	0166-65-4115	0166-65-4127
	01H17	北海道新十津川農業高	073-11	樺戸郡新十津川町字中央13番地	01257-6-2621	
	01H18	北海道個人登録選手	062	札幌市豊平区旭町4丁目1-41	011-841-1161	
01H19						
01H20						
01H21						
01H22						
青森県 13校	02H01	県立 三 本 木 農 業 高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
	02H02	県立 藤 崎 園 芸 高	038-38	南津軽郡藤崎町大字藤崎字下袋7の10	0172-75-3302	0172-75-6470
	02H03	八戸工業大学第二高	031	八戸市大字妙字中居林	0178-25-4311	0178-25-0568
	02H04	県立 む つ 工 業 高	039-51	むつ市文京町22の7	0175-24-2164	0175-29-2893
	02H05	八戸工業大学第一高	031	八戸市白銀町右岩沢通7の10	0178-33-5121	0178-34-3942
	02H06	県立 名 久 井 農 業 高	039-05	三戸郡名川町下名久井字下諏訪平1番地	0178-76-2215	0178-76-2260
	02H07	県立 青 森 西 高	038	青森市新城字平岡226の20	0177-88-0372	0177-88-8038
	02H08	県立 青 森 東 高	039-35	青森市大字原別字遠山13番地	0177-36-2444	0177-36-5866
	02H09	青 森 山 田 高	030	青森市浜田字板橋23	0177-39-2001	0177-39-1597
	02H10	県立 青 森 中 央 高	030	青森市大字浦町字奥野428番地	0177-39-5135	
	02H11	県立 五 所 川 原 農 林 高	037	五所川原市大字一野坪字鞆日田2-37	0173-37-2121	
	02H12	県立 八 戸 南 高	031	八戸市大字鮫町小舟渡平2-291	0178-34-6001	
	02H13	県立 五 戸 高	039-15	三戸郡五戸町字根岸6番地	0178-62-2828	0178-62-4435
	02H14					
	02H15					
岩手県 3校	03H01	県立 盛 岡 工 業 高	020	紫波郡南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134
	03H02	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸4丁目29番16号	0196-61-6330	
	03H03	県立 住 田 高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	
	03H04					

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	03H05					
宮城県 2校	04H01	市立 仙 台 工 業 高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	
	04H02	東 陵 高	988	気仙沼市宇大峠山1番1号	0226-23-3100	0226-23-3107
	04H03					
	04H04					
秋田県 1校	05H01	県立 大 館 東 高	017	大館市釈迦内字獅子ヶ森 1 番地	0186-48-6607	
	05H02					
山形県 6校	06H01					
	06H02	天 真 学 園 高	998	酒田市浜田1丁目3-47	0234-22-4733	
	06H03	県立 鶴 岡 南 高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
	06H04	県立 鶴 岡 北 高	997	鶴岡市若葉町16- 5	0235-22-2262	0235-24-6101
	06H05	県立 鶴 岡 家 政 高	997	鶴岡市新形町16-20	0235-22-1200	0235-22-1200
	06H06	県立 鶴 岡 工 業 高	997	鶴岡市家中新町 8 - 1	0235-22-5505	0235-25-1877
	06H07	県立 山 添 高	997-03	東田川郡櫛引町大字上山添字文栄38番地	0235-57-2100	0235-57-2101
	06H08					
	06H09					
福島県 3校	07H01	県立 田 村 高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-3385
	07H02	県立 福 島 高	960	福島市森合町 5 番72号	0245-35-2391	
	07H03	県立 福 島 南	960	福島市渡利字七社宮17	0245-23-4740	
	07H04					
茨木県 1校	08H01	私立 水 城	310	水戸市白梅 2 丁目 1 番地45号	0292-47-6509	0292-48-3841
	08H02					
栃木県 3校	09H01	県立 馬 頭 高	324-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
	09H02	県立 黒 羽 高	324	那須郡黒羽町前田780	0287-54-0179	0287-54-4179
	09H03	県立 鳥 山 高	321	那須郡鳥山町中央 3 丁目 9 番 8 号	0287-83-2075	0287-83-0145
群馬県 10校	10H01	県立 沼 田 女 子 高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	
	11H02	県立 藤 岡 北 高	375	藤岡市篠塚90	0274-22-2308	
	10H03	県立 沼 田 高	378	沼田市西原新町1510番地	0278-23-1313	
	10H04	県立 太 田 高	373	太田市西本町12の1	0276-31-7181	
	10H05	県立 安 中 実 業 高	379-01	安中市安中1-2-8	0273-81-0227	0273-82-7207
	10H06	県立 館 林 女 子 高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0186	
	10H07	県立 桐 生 西 高	376	桐生市相生町3丁目551-1	0277-52-2455	
	10H08	高崎商科短期大学附属高	370	高崎市大橋町237番地の1	0273-22-2827	0273-22-2827
	10H09	私立 新 島 高	379	安中市安中3702	0273-81-0240	0273-81-0630
	10H10	県立 高 崎 東 高	370	高崎市元島名町1510	0273-52-1251	0273-53-0994
埼玉県 9校	11H01	大 宮 開 成 高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
	11H02	県立 豊 岡 高	358	入間市豊岡1丁目15番1号	0429-62-5216	0429-65-6635
	11H03	県立 行 田 高	361	行田市大字長野1320番地	0485-56-6291	0485-56-1215
	11H04	県立 所 沢 中 央 高	359	所沢市並木8丁目2番	0429-95-6088	0429-94-6557
	11H05	春 日 部 共 栄 高	344	春日部市上大増新田213	048-737-7611	048-737-8093
	11H06	花 咲 徳 栄 高	347	加須市花崎江橋519	0480-65-7181	0480-65-4893

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	11H07	県立上尾橘高	362	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-726-5397
	11H08	県立新座高	352	新座市池田1-1-2	0484-79-5110	
	11H09	県立日高高	350-12	入間郡日高町旭ヶ丘806	0429-89-7920	0429-85-4412
	11H10					
千葉県	12H01	県立京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	
13校	12H02	千葉英和高	276	八千代市村上709-1	0474-84-5141	
	12H03	県立津田沼高	275	習志野市秋津5-9-1	0474-51-1177	
	12H04	県立磯辺高	260	千葉市磯辺2丁目7番1号	0472-77-2211	
	12H05	県立松戸矢切高	271	松戸市中矢切54番地	0473-68-4741	
	12H06	県立姉崎高	299-01	市原市姉崎2632番地	0436-62-0601	
	12H07	県立流山中央高	270-01	流山市大畔275-5	0471-54-3551	
	12H08	県立生浜高	260	千葉市塩田町372	0472-66-4591	0472-68-2680
	12H09	県立船橋高	273	船橋市東船橋6丁目1番1号	0474-22-2188	
	12H10	八街学園高	289-11	印旛郡八街町八街625	0434-43-3221	0434-43-3443
	12H11	拓殖大学紅陵高	292	木更津市桜井1403番地	0438-37-2511	
	12H12	県立泉高	280-01	千葉市高根町875-1	0472-28-2551	
	12H13	志学館高	292	木更津市真舟3丁目29番1号	0438-37-3131	
	12H14					
東京都	13H01	東京学園高	153	目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641	
30校	13H02	都立四谷商業高	165	中野区上鷲宮5-11-1	03-3990-4226	03-3926-7523
	13H03	明治大学付属中野高	164	中野区東中野3丁目3番4号	03-3362-8704	03-3368-3113
	13H04	駒場東邦高	154	世田谷区池尻4-5-1	03-3466-8221	
	13H05	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2138
	13H06	玉川学園高	194	町田市玉川学園6丁目1番1号	0427-28-3503	0427-28-3588
	13H07	都立山崎高	194-01	町田市山崎町字9号1453-1	0427-92-2891	0427-94-0440
	13H08	学習院高	171	豊島区目白1丁目5番1号	03-3986-0221	03-5992-1016
	13H09	麻布高	106	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	
	13H10	獨協高	112	文京区関口3-8-1	03-3943-3651	03-3943-9119
	13H11	慶応義塾女子高	108	港区三田2丁目17番23号	03-3451-3618	03-3451-3642
	13H12	武蔵野高	114	北区西ヶ原4-56-20	03-3910-0151	
	13H13	東海大学付属高輪台高	108	港区高輪2-2-16	03-3441-8234	03-3441-8238
	13H14	早稲田大学高	177	練馬区上石神井3丁目31番1号	03-5991-4151	03-3928-4110
	13H15	城北高	174	豊島区目白5-23-5	03-3956-3157	03-3956-9779
	13H16	足立高	120	足立区千住旭町40-24	03-3888-5331	03-3888-6720
	13H17	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
	13H18	都立大山高	173	板橋区小茂根5-18-1	03-3958-2121	03-3959-8591
	13H19	昭和第一学園高	190	立川市栄町2-45-8	0425-36-1611	0425-37-6880
	13H20	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3405	0422-33-3376
	13H21	都立第四商業高	176	練馬区真井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040
	13H22	日体桜華女子高	189	東村山市富士見町2-5-1	0423-91-4133	0423-92-6424
	13H23	明治学院東村山高	189	東村山市富士見町1丁目12番3号	0423-91-2142	0423-91-5926

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	13H24	都立 館 高	193	八王子市館町1097番136	0426-63-3315	0426-62-9831
	13H25	大東文化学園高				
	13H26	藤村女子高				
	13H27	都立 野 津 田 高	194-01	町田市野津田町2000番	0427-34-2311	0427-34-9388
	13H28	都立 小 平 西 高	187	小平市小川町1-502-95	0423-45-1411	
	13H29	文京女子高	113	文京区本駒込6-18-3	03-3964-5301	03-3964-7294
	13H30	私立 国 土 館	154	世田谷区世田谷4-28-1	03-3421-7042	03-5481-3149
	13H31					
神奈川県 18校	14H01	横 浜 高	236	横浜市金沢区能見台通46-1	045-781-3396	045-785-1541
	14H02	相模女子大学高	228	相模原市文京2-1-1	0427-42-1442	
	14H03	県立 横 浜 緑ヶ丘高	231	横浜市中区本牧緑ヶ丘37番地	045-621-8641	
	14H04	浅 野 高	221	横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-3281	045-421-4080
	14H05	三 浦 高	238	横須賀市衣笠栄町3丁目80番地	0468-52-0284	
	14H06	市立 横 須 賀 高	238	横須賀市森崎5丁目1番1号	0468-36-0413	0468-36-1361
	14H07	県立 東 金 沢 高	236	横浜市金沢区富岡東2丁目6番1号	045-774-1188	045-776-2357
	14H08	県立 小 田 原 城 内 高	250	小田原市南町1-6-34	0465-23-3251	0465-23-6142
	14H09	県立 湘南高通信制少年工学校	238-03	横須賀市幸浜2-1	0468-56-1291	
	14H10	平 和 学 園 高	253	茅ヶ崎市富士見町5番2号	0467-87-0132	0467-87-2088
	14H11	東海大学附属相模高	228	相模原市相南3-33-1	0427-42-1251	0427-42-1159
	14H12	慶 応 義 塾 高	223	横浜市港北区日吉4丁目1番2号	044-563-1111	
	14H13	横 浜 学 園 高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
	14H14	県立 永 谷 高	233	横浜市港南区下永谷町1-28-1	045-824-2126	045-825-3605
	14H15	市立 南 高	233	横浜市港南区東永谷町2丁目1番1号	045-822-1910	
	14H16	県立 上 矢 部 高	245	横浜市戸塚区上矢部町3230	045-861-3500	045-862-6347
	14H17	鎌倉女学院高	248	鎌倉市由比ヶ浜2-10-4	0467-25-2100	0467-25-1358
	14H18	県立 三 崎 水 産 高	240	横須賀市長坂1-2-1	0468-56-3128	0468-57-6457
	14H19					
山梨県 5校	15H01	県立 甲 府 第 一 高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
	15H02	山 梨 英 和 高	400	甲府市愛宮町112	0552-52-6184	0522-51-7468
	15H03	甲 府 湯 田 高	400	甲府市青沼3丁目10-1	0552-33-0127	0552-33-0129
	15H04	県立 農 林 高	400-01	中巨摩郡竜王町西八幡4533	0552-76-2611	
	15H05	県立 機 山 工 業 高	400	甲府市下飯田1丁目9番1号	0552-28-7281	
	15H06					
	15H07					
新潟県 4校	16H01	県立 長 岡 工 業 高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	
	16H02	敬 和 学 園 高	950-31	新潟市太夫浜325	025-259-2391	025-259-7281
	16H03	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
	16H04	県立 新 潟 中 央 高	951	新潟市学校町通り2番地5317-1	025-229-2191	
	16H05					
長野県 1校	17H01	県立 篠 ノ 井 校	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	
	17H02					

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	17H03					
富山県 4校	18H01	高岡竜谷高	933	高岡市古定塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149
	18H02	県立魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
	18H03	新川高	937	魚津市吉島1350	0765-24-2015	0765-24-2015
	18H04	県立富山中部高	930	富山市芝園町3丁目1-26	0764-41-3541	0764-41-3543
石川県 4校	19H01	県立柳田農業高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ倍3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
	19H02	県立金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
	19H03	県立工業高	920	金沢市本多町2丁目3番6号	0762-61-7156	0762-65-5346
	19H04	県立金沢桜丘高	920	金沢市大樋町16番1号	0762-52-1225	0762-52-1643
	19H05					
福井県 4校	20H01	県立丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
	20H02	県立金津高	919-06	坂井郡金津町南金津33-1	0776-73-1255	0776-73-4904
	20H03	敦賀気比高	914	敦賀市沓見164-1	0770-24-2150	0770-24-2620
	20H04	県立高志高	910	福井市御幸2丁目25-8	0776-24-5175	0776-24-5177
	20H05					
	20H06					
静岡県 14校	21H01	県立修善寺工業高	410-24	田方郡修善寺町牧之郷892番地	0558-72-3322	0558-72-1955
	21H02	富士見高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
	21H03	県立静岡商業高	420	静岡市田町7丁目90番地	054-255-6241	054-255-9241
	21H04	県立袋井高	437	袋井市愛野2446-1	0538-42-0191	0538-43-0710
	21H05	県立浜松工業高	433	浜松市初生町1150	053-436-1101	053-437-9988
	21H06	県立浜松商業高	432	浜松市文丘町4番11号	053-471-3351	053-475-2109
	21H07	信愛学園高	430	浜松市下池川町34番3号	053-471-5336	053-475-2395
	21H08	興誠高	430	浜松市高林1丁目17番2号	053-471-4136	053-471-4137
	21H09	県立浜松北高	432	浜松市広沢1丁目30番1号	053-454-5548	053-456-3316
	21H10	県立浜松湖東高	431-11	浜松市大人見町3600	053-485-0215	053-485-3947
	21H11	県立三ヶ日高	431-14	引佐郡三ヶ日町釣78-1	0535-25-0103	0535-25-0426
	21H12	県立天竜林業高	431-33	天竜市二俣町二俣601番地	0539-25-3139	0539-25-7422
	22H13	静岡北高	420	静岡市瀬名3240	0542-61-5801	0542-62-5573
	22H14	県立静岡東高	420	静岡市川合757番地	0542-61-6636	0542-63-5970
	22H15					
	22H16					
愛知県 17校	22H01	愛知高	464	名古屋市千種区光ヶ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
	22H02	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水3丁目2番12号	052-721-0311	052-722-8302
	22H03	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉2丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
	22H04	愛知女子高	451	名古屋市西区新道1丁目23番15号	052-571-8422	052-561-0713
	22H05	東海女子高	468	名古屋市天白区中平2丁目901番地	052-801-6222	052-804-0647
	22H06	東海高	461	名古屋市東区筒井1-2-35	052-936-5112	052-936-9744
	22H07	東邦高	465	名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地	052-782-1171	052-782-7151
	22H08	金城学院高	461	名古屋市東区白壁4-64	052-931-6236	
	22H09	県立安城東高	446	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231	

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	22H10	三 河 高	444	岡崎市岡町字原山12-10	0564-48-5211	0564-48-5300
	22H11	桜 丘 高	440	豊橋市南牛川2丁目1番の11	0532-61-6421	0532-63-9278
	22H12	県立衣 台 高	471	豊田市太平町平山 5 番地	0565-33-1080	
	22H13	県立西 尾 東 高	445	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911	
	22H14	県立岡 崎 東 高	444-35	岡崎市竜泉寺町字後山27番地	0564-52-8911	
	22H15	名古屋工業高	466	名古屋市昭和区円上町22-38	052-871-2681	052-881-0761
	22H16	中京女子大学附属高	461	名古屋市東区大幸南 2 丁目1番10号	052-723-0851	052-723-1744
	22H17	市立向 陽 高	466	名古屋市昭和区広池町47番地	052-841-7138	052-853-2453
	22H18					
三重県	23H01	三 重 高	515	松阪市久保町梅村3番地	0598-29-2959	0598-29-6807
3校	23H02	県立四 日 市 高	510	四日市市大字永字岡山4917	0593-45-3177	0593-45-9549
	23H03	松 阪 女 子 高	515	松阪市久保町梅村 1 番地	0598-29-4151	0598-29-6944
	23H04					
	23H05					
岐阜県	24H01	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
2校	24H02	高 山 西 高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
	24H03					
滋賀県	25H01	県立大 津 商 業 高	520	大津市御陵町2-1	0775-24-4284	0775-26-1802
11校	25H02	県立大 津 高	520	大津市馬場1丁目1番1号	0775-23-0386	0775-26-1772
	25H03	県立栗 東 高	520-30	栗大郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
	25H04	市立守 山 女 子 高	524	守山市勝部町962番地	0775-82-2019	0775-83-2829
	25H05	県立甲 南 高	520-33	甲賀郡甲南町寺庄427	0748-86-4145	0748-86-4983
	25H06	県立八 幡 商 業 高	523	近江八幡市宇津呂町10	0748-32-2072	0748-32-4052
	25H07	県立愛 知 高	529-13	愛知郡愛知川町102	0749-42-2150	0749-42-6172
	25H08	県立伊 吹 高	521-02	坂田郡山東町朝日302番地	0749-55-2350	0749-55-2778
	25H09	県立長 浜 商 工 高	526	長浜市地福寺町3-72	0749-62-3370	0749-65-1344
	25H10	県立虎 姫 高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
	25H11	県立北 大 津 高	520-02	大津市仰木の里 1 丁目23-1	0755-73-5881	0775-73-7076
	25H12					
	25H13					
京都府	26H01	同 志 社 高	606	京都市左京区岩倉大鷲町89	075-781-7121	075-781-7124
8校	26H02	同 志 社 女 子 高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4308
	26H03	福 知 山 商 業 高	620	福知山市宇堀水内	0773-22-6224	
	26H04	市立洛 陽 工 業 高	601	京都市南区唐橋大宮尻町22	075-691-3161	
	26H05	市立紫 野 高	603	京都市北区紫野大徳寺町22	075-491-0221	
	26H06	府立木 津 高	619-02	相楽郡木津町字木津内田山34	07747-2-0031	07747-2-0031
	26H07	府立兔 道 高	611	宇治市五ヶ庄雲峰4-1	0774-33-1691	0749-33-1696
	26H08	府立府 立 工 業 高	620	福知山市大字石原小字上野45	0773-27-5161	0773-27-5162
	26H08					
	26H09					
大阪府	27H01	府立和 泉 工 業 高	594	和泉市富秋町33	0725-41-1250	0725-45-8985

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
15校	27H02	大 阪 高	533	大阪市東淀川区相川2-18-51	06-340-3031	06-349-3719
	27H03	大阪工業大学高	535	大阪市旭区大宮5丁目16番1号	06-952-3131	06-953-9497
	27H04	大阪女子商業高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
	27H05	関西大倉高	567	茨木市室山2丁目14番1号	0726-43-6321	0726-43-8375
	27H06	市立 岸和田産業高	596	岸和田市別所町541	0724-22-4861	0724-22-4862
	27H07	府立 久米田高	596	岸和田市額原町	0724-43-6651	0724-43-0307
	27H08	此花学院高	544	大阪市生野区勝山南2丁目6番38号	06-716-0003	
	27H09	帝塚山学院高	558	大阪市住吉区帝塚山中3丁目10番51号	06-672-1151	06-678-8797
	27H10	浪速工業高	566	摂津市三島3丁目5番36号	06-381-0220	06-383-4822
	27H11	府立 西野田工業高	553	大阪市福島区大開2丁目17番62号	06-461-0023	06-461-3483
	27H12	初 芝 高	591	堺市日置荘西町51	0722-85-0128	0722-86-8405
	27H13	桃山学院高	545	大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号	06-621-1181	06-621-1111
	27H14	府立 山 本 高	581	八尾市山本町北1-1-44	0729-99-0552	0729-99-4374
	27H15	府立 工業高等専門学校	572	寝屋川市幸町26番12号	0720-21-6401	0720-21-0134
	27H16					
	27H17					
	兵庫県 16校	28H01	滝 川 高	654	神戸市須磨区宝田町2丁目1-1	078-732-1625
28H02		須磨ノ浦女子高	654	神戸市須磨区行幸町2丁目7-3	078-731-6637	078-731-6149
28H03		甲 南 高	659	芦屋市山手町31-3	0797-31-0551	0797-31-7458
28H04		市立 琴 丘 高	670	姫路市今宿668	0792-92-4925	
28H05		県立 星 陵 高	655	神戸市垂水区星陵台4丁目3-2	078-707-6565	078-707-6589
28H06		夙川学院高	662	西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596
28H07		松 蔭 高	657	神戸市灘区青谷3丁目4番47号	078-861-1105	078-861-1887
28H08		甲南女子高	658	神戸市東灘区森北5丁目6-1	078-411-2531	078-411-2535
28H09		神戸山手女子高	650	神戸市中央区諏訪山町6番1号	078-341-6050	078-341-1882
28H10		県立 舞 子 高	655	神戸市垂水区学が丘3丁目2番	078-783-5151	078-783-5152
28H11		県立 姫 路 東 高	670	姫路市本町68	0792-85-1166	0792-85-1167
28H12		県立 夢 野 台 高	653	神戸市長田区房王寺町2丁目1	078-691-1546	078-691-1548
28H13		須磨女子高	654	神戸市須磨区板宿町3-15-14	078-732-1968	
28H14		滝川第二高	651-22	神戸市西区平野町下村字平瀬436-1	078-961-2381	078-961-4591
28H15		県立 西 宮 甲 山 高	662	西宮鷲林寺字剣谷10番地	0798-74-2460	0798-74-2461
28H16		神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070
28H17						
28H18						
奈良県 3校	29H01	県立 奈 良 高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
	29H02	天 理 高	632	天理市袖之内町1260	07436-3-1511	07436-3-1368
	29H03	奈良学園高	639	大和郡山市山田町430	07435-4-0351	07435-4-0335
	29H04					
和歌山県 1校	30H01	県立 貴 志 川 高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
	30H02					
	30H03					

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
鳥取県 5校	31H01	米子北高	683	米子市米原523番地	0859-22-9371	0859-32-6838
	31H02	県立倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
	31H03	県立倉吉東高	682	倉吉市下田中町801番地	0858-22-5205	0858-22-5206
	31H04	県立鳥取商業高	680	鳥取市湖山町北2丁目401番地	0857-28-0156	0857-28-0157
	31H05	県立鳥取東高	680	鳥取市立川町5丁目210	0857-22-8495	0857-22-8497
	31H06					
	31H07					
島根県 1校	32H01	県立松江東高	690	松江市西川津町字宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
	32H02					
	32H03					
岡山県 3校	33H01	岡山理大学附属高	700	岡山市理大町1-1	0862-52-3161	0862-55-6312
	33H02	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
	33H03	高梁日新高	716	高梁市内山下150番地	0866-22-3466	
	33H04					
	33H05					
広島県 22校	34H01	尾道高	722	尾道市栗原町1268-1	0848-23-2312	0848-23-3664
	34H02	国立広島大学附属福山高	721	福山市春日町吉田	0849-41-8350	0849-41-8356
	34H03	市立呉豊栄高	737	呉市阿賀中央5丁目13番56号	0823-72-5577	0823-74-3501
	34H04					
	34H05	県立呉宮原高	737	呉市宮原3丁目1番1号	0823-21-9306	0823-21-9308
	34H06	県立海田高	736	安芸郡海田町つくも町1番60号	082-822-3030	082-822-3803
	34H07	県立加計高	731-35	山県郡加計町加計3780-1	08262-2-0488	08262-2-1691
	34H08	広島山陽学園山陽高	733	広島市西区観音新町4丁目12-5	082-232-9156	082-232-2497
	34H09	修道高	730	広島市中区南千田西町8-1	082-241-8291	082-249-0870
	34H10	広島女子商業高	732	広島市南区南段原町11-5	082-261-8161	
	34H11	県立広島工業高	734	広島市南区出汐2丁目4-75	082-254-1421	082-253-3407
	34H12	国立広島大学付属高	734	広島市南区翠1丁目1-1	082-251-0191	082-252-0725
	34H13	県立広島皆実高	734	広島市南区出汐2丁目4-76	082-251-6441	082-251-6441
	34H14	県立可部高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
	34H15	山陽女子高	738	広島市廿日市市佐方本町1-1	0829-32-2221	0829-32-7681
	34H16	県立因島北高	722-21	因島市重井町長浜5574	08452-4-1281	08452-4-3585
	34H17	英数学館高	721	福山市引野町980-1	0849-41-4115	0849-41-4118
	34H18	福山暁の女子高	721	福山市西深津町3丁目4番1号	0849-22-1682	0849-25-1533
	34H19	近畿大学附属福山高	720	福山市佐波町389	0849-51-2695	0849-51-3581
	34H20	広島第一女子商業高	732	広島市東区山根町天神谷108-8	082-262-0128	082-263-9228
	34H21	県立廿日市西高	738	廿日市市阿品台西6-1	0829-39-1571	0829-39-0576
	34H22	県立賀茂高	724	東広島市西条町西条東770	0824-23-2559	0824-22-2792
	34H23	県立福山葦陽高	720	福山市久松台3丁目1-1	0849-23-0400	0849-23-0200
山口県 8校	35H01	県立久賀高	742-23	大島郡久賀町第4851番地の2	08207-2-0024	08207-2-0096
	35H02	県立下関西高	751	下関市後田町4丁目10番1号	0832-22-0892	0832-22-0892
	35H03	聖光高	743	光市光井9丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1189

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	35H04	県立 田布 施 工 業 高	742-15	熊毛郡田布施町麻郷奥	0820-48-2306	0820-52-2269
	35H05	県立 田布 施 農 業 高	742-15	熊毛郡田布施町大字波野	0820-52-2157	0820-53-6036
	35H06	県立 西 京 高	753	山口市大字黒川2580番地の1	0839-23-8508	0839-32-0721
	35H07	県立 華 陵 高	744	下松市朱武上屋称下217-2	0833-44-1285	
	35H08	県立 下 松 高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	0833-41-3147
	35H09					
	35H10					
香川県 4校	36H01	県立 高 松 西 高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
	36H02	県立 観 音 寺 第 一 高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	
	36H03	尽 誠 学 園 高	765	善通寺市生野町855番地	0877-62-1515	0877-63-3860
	36H04	県立 高 松 南 高	761	高松市一宮町531	0878-85-1131	0878-85-1133
徳島県 4校	37H01	県立 徳 島 工 業 高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
	37H02	県立 鳴 門 高	772	鳴門市撫養町斉田字岩崎135-1	0886-85-3217	
	37H03	県立 阿 波 高	771-15	板野郡吉野町柿原字ヒロナカ180	0886-96-3131	0886-96-5130
	37H04	私立 生 光 学 園	771	徳島市応神町中原38	0886-41-1032	0886-41-4075
愛媛県	38H01					
	38H02					
高知県 2校	39H01	県立 高 知 小 津 高	780	高知市城北町1-14	0888-22-5270	
	39H02	私立 高 知 高	780	高知市北端町100	0888-40-1111	0888-44-7578
福岡県 4校	40H01	県立 柏 陵 高	815	福岡市南区大字柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
	40H02	県立 折 尾 高	807	北九州市西区大膳2丁目23番1号	093-691-3561	093-691-9529
	40H03	県立 門 司 北 高	800-01	北九州市門司区猿喰1462-2	093-481-4673	093-481-5768
	40H04	小 倉 女 子 商 業 高	803	北九州市小倉北区皿山町15番1	093-561-1334	093-561-4844
	40H05					
	40H06					
	40H07					
佐賀県 1校	41H01	県立 佐 賀 農 芸 高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	
	41H02					
	41H03					
長崎県 3校	42H01	県立 大 村 工 業 高	856	大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
	42H02	県立 諫 早 東 高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	
	42H03	県立 長 崎 南 商 業 高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	
	42H05					
	42H04					
熊本県 4校	43H01	県立 第 二 高	862	熊本市東町3-8	096-368-4125	
	43H02	有 明 高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
	43H03	東 海 大 学 第 二 高	862	熊本市大江町渡鹿223	096-382-1146	096-385-2161
	43H04	私立 熊 本 フ ェ イ ス 女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
	43H05					
大分県 11校	44H01	別 府 女 短 大 付 属 高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6908	0977-67-8255
	44H02	明 星 高	874	別府市野口原3088番地	0977-21-2090	0977-24-3142

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	備 考
	44H03	大分 櫻 丘 高				
	44H04	県立 鶴 見 丘 高	874	別府市鶴見字横打4433-2	0977-21-0118	
	44H05	大分 電 波 高	870	大分市新貝11-40	0975-58-3734	
	44H06	県立 別 府 羽 室 台 高				
	44H07	県立 佐 伯 豊 南 高				
	44H08	大分 東 明 高	870	大分市千代町2丁目4-4	0975-35-0201	0975-35-0966
	44H09	県立 大 分 豊 府 高	870	大分市大字羽屋600番1	0975-46-2222	
	44H10	大 分 高	870-01	大分市横尾字大丸尾	0975-51-1101	
	44H11	県立 大 分 上 野 台 高	870	大分市上野丘2丁目10番1号	0975-43-6249	
	44H12					
	44H13					
宮崎県	45H01	県立 都 城 泉 ヶ 丘 高				
2校	45H02	県立 都 城 西 高				
	45H03					
	45H04					
鹿児島県	46H01	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	
2校	46H02	県立 鹿 児 島 工 業 高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	0922-22-9205	0992-22-9206
	47H03					
	47H04					
沖縄県	47H01	県立 豊 見 城 南 高	901-02	豊見城市字翁長520	0988-50-1951	
5校	47H02	県立 宜 野 湾 高	901-22	宜野湾市字真志喜2丁目25番1号	09889-7-1020	
	47H03	県立 中 部 商 業 高	901-22	宜野湾市字我如古171番地	098-898-4888	098-898-4808
	47H04	県立 前 原 高	904-22	具志川市字田湯1827番地	098-973-3249	
	47H05	県立 大 平 高	901-21	浦添市字大平488番地	098-879-3062	

- 都道府県数 44県 (内34都道府県 高体連に加盟 平成5年4月現在)
- 学 校 数 323校
- 新規加盟校の指定学校番号は、各都道府県で指定学校番号を付記し本専門部へ通知すること。

1992年 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟 登録状況一覧表

平成5年1月12日現在

番号	都道府県名	単独校		複数校	女子			女子合計	男子			男子合計	合計			総合計
		女子	男子		1年	2年	3年		1年	2年	3年		1年	2年	3年	
1	北海道		2	15	46	51	40	137	72	59	54	185	118	110	94	322
2	青森	3	3	5	16	23	22	61	6	42	24	72	22	65	46	133
3	岩手	2		1	26	14	13	53	19	6	5	30	45	20	18	83
4	宮城	1		1	1	3	4	8	2	1	3	6	3	4	7	14
5	秋田															
6	山形	2	1	2	9	28	8	45	24	7	8	39	33	35	16	84
7	福島		1	2	3	10	3	16	14	12	9	35	17	22	12	51
8	茨城			1	3			3	9			9	12			12
9	栃木	1	1	1	7	8	1	16	6	5	5	16	13	13	6	32
10	群馬	5	3	1	50	19	21	90	15	16	24	55	65	35	45	145
11	埼玉	1		7	90	35	35	160	51	40	27	118	141	75	62	278
12	千葉		1	12	32	29	35	96	52	49	46	147	84	78	81	243
13	東京	7	10	8	97	58	53	208	100	118	72	290	197	176	125	498
14	神奈川	3	4	8	65	58	29	152	63	86	67	216	128	144	96	368
15	山梨	2		1	25	8	3	36	3	3	1	7	28	11	4	43
16	新潟		1	2		5	6	11		19	10	29		24	16	40
17	長野			1		2	5	7		1	5	6		3	10	13
18	富山		1	3	9	6	3	18	38	24	9	71	47	30	12	89
19	石川			3		2	5	7		9	10	19		11	15	26
20	福井	1		3	18	16	16	50	7	10	9	26	25	26	25	76
21	静岡	2	5	5	41	27	19	87	71	53	53	177	112	80	72	264
22	愛知	5	4	6	46	50	23	119	62	69	57	188	108	119	80	307
23	三重	2	1		3	1	3	7		8	2	10	3	9	5	17
24	岐阜	1		1	9	7	5	21		5	3	8	9	12	8	29
25	滋賀	2		9	37	34	13	84	34	47	20	101	71	81	33	185
26	京都	1	3	4	32	39	20	91	50	40	56	146	82	79	76	237
27	大阪	2	7	6	41	39	22	102	86	76	85	247	127	115	107	349
28	兵庫	7	2	7	65	62	33	160	45	48	21	114	110	110	54	274
29	奈良		2	1	4	8	3	15	20	13	7	40	24	21	10	55
30	和歌山			1			3	3			5	5			8	8
31	鳥取			5	17	18	18	53	24	18	10	52	41	36	28	105
32	島根			1		15		15		7	1	8		22	1	23
33	岡山	1	1		8	4	2	14	9	2	9	20	17	6	11	34
34	広島	5	6	9	77	39	24	140	67	41	33	141	144	80	57	281
35	山口	1	1	6	24	8	17	49	39	17	29	85	63	25	46	134
36	香川		2	2	7	14	6	27	13	20	12	45	20	34	18	72
37	徳島	1	1	2	9	11	7	27	5	17	10	32	14	28	17	59
38	愛媛															
39	高知		1								2	2			2	2
40	福岡	1		3	20	15	12	47	14	11	9	34	34	26	21	81
41	佐賀			1	3	2	2	7	9	3		12	12	5	2	19
42	長崎	1		2	19	13	5	37	17	6	14	37	36	19	19	74
43	熊本	1		3	7	13	7	27	18	14	11	43	25	27	18	70
44	大分	1	1	2	15	8	7	30	7	3	4	14	22	11	11	44
45	宮崎															
46	鹿児島			1		1		1		5	7	12		6	7	13
47	沖縄			4	12	10	5	27	4	10	12	26	16	20	17	53
合計		62	65	158	993	813	558	2364	1075	1040	860	2975	2068	1853	1418	5339

○高体連加盟 35都道府県

323校+α

《第108回全米選手権大会に参加して》

アメリカ合衆国オハイオ州オックスフォードマイアミ大学
1992. 7. 19～7. 24

全国高体連アーチェリー専門部強化委員

水上英彦

《はじめに》

92年度、ジュニアの海外派遣は、第108回全米選手権大会に、高校生5名、大学生4名の計9名の選手が派遣された。派遣された高校生は、男子が、松山義一（東京工業高校、東京都）、相蘇義章（旭川北高校、北海道）、女子が、岡野善恵（甲南女子高校、兵庫県）、角田義美（虎姫高校、滋賀県）、坂口絵理（柏陵高校、福岡県）、以上の5名が、インターミディエイト（高校生）、ビジター部門に参加。

以下、国内予選の結果、日程、試合経過、感想等思うままに書かさせていただきます。

《国内予選》

〈第一次選考会〉 4月21日～23日

掛川つま恋

〈最終選考会〉 5月10日～13日

掛川つま恋

女 子			
2位	岡野善恵	1,731点	(533点) (1,198点)
4位	角田義美	1,719点	(607点) (1,112点)
5位	坂口絵理	1,677点	(528点) (1,149点)
男 子			
2位	相蘇義章	1,680点	(555点) (1,125点)
5位	松山義一	1,653点	(525点) (1,128点)
※一日目荒天の為50M 1回目で競技終了			

女 子			
1位	岡野善恵	2,378点	(1,171点) (1,207点)
2位	角田義美	2,261点	(1,128点) (1,133点)
3位	坂口絵理	2,244点	(1,080点) (1,164点)
男 子			
1位	相蘇義章	2,311点	(1,140点) (1,171点)
2位	松山義一	2,304点	(1,120点) (1,184点)

以上2回の選考会により、ジュニアの全米選手権大会出場者が決定。その後、6月と7月に強化合宿（9日間）を掛川のつま恋アーチェリー場で行なう。

《日程、試合経過、感想》

◎ 7月16日

・期待と不安の交錯した気持ちで、一路アメリカに出発。約11時間30分かけてシカゴに到着。シカゴから1時間25分でシンシナティーに着く、そこから、大学のバスで1時間30分、やっと試合会場であるマイアミ大学に着く。夜の9時を過ぎていた。簡単なミーティングを行ない就寝する。

◎ 7月17日 晴れてはいるが、風があり、少々肌寒い。

・時差ボケで少々眠たいようだ。しかし、選手は、すぐ元気になり、練習場（寄宿舎の前）に行き、約2時間ほど肩ならし程度に射つ。たまたま、韓国の選手（男子4名女子4名）も練習しており、その射型の素晴らしさに、しばし見とれている。特に男子の体型は、そうとうトレーニングを積んでいるのが解かる。

・昼食は、大学の食堂で、各自好きなものを注文したが、慣れない為、皆同じ所にかたまっ

て他人の言うのを聞いて注文していたようだ。もちろん、英語でしゃべらなくては通じないし、事前に少しは勉強もしていったが、いざ話すとなかなかこちらの思っているようにはいかない。

結局、単語を言って、指でさす、相手を日本人だとわかって親切にゆっくりしゃべってくれる、これで何とか自分の食べたいものが注文できた。しかし、量の多さと大きさにはただただビックリする。これがアメリカサイズと言うものか!!

- ・午後2時間程度練習をするが、大部環境にも慣れてきたようで、他の国の選手とジェスチャー入りで話をしており、リラックスムードを感じた。多少心配したのが、あまり入れ込み過ぎて射ち過ぎてしまわないかということ。早くいつもの自分に戻そうとするあまり、ついつい射ち過ぎてしまう傾向がある。焦りがそうさせるのであり、『ここまできて焦ることもないだろうに』と思いつつも、選手のやる気に圧倒されて、納得のいくまで射ち込む選手の姿を、ただ見守っているだけだった。
- ・夕食は、大学の近くのレストランに行き、食事をする。ここでもまた、勉強会(?)が始まってしまった。オーダーの仕方からチップ、サービス料のことまで、また、釣銭の払い方等日本とは大部違いがある。また、アメリカ人は、楽しみながら食事をし、よく話もする。だから、食事時間も2時間はざらである。そういう私達も、レストランに入ったのが6時前、食事を終えて出てきたのが8時30分、何と食事に要した時間が、2時間30分でした。
- ・ミーティングを男女別に行なう。コーチから、この全米選手権大会の目標なり目的を聞かれる。各自それなりの目標や目的を持って臨んでおり、やはり選ばれた選手だけのことはあり、考え方もしっかりしていると思った。練習日なので、選手はまだ、実感としてアメリカにきているという感覚がなく、射つことに精一杯のようだ。

◎7月18日 微風 暑く湿気もある

- ・午前6時起床、7時体操及びトレーニングで身体をほぐす。9時30分から12時まで練習、現地に来て3日目身体も大部慣れてきて、だるさがなくなる、皆若いからすぐ適応してしまう、うらやましいかぎりである。とりあえず、射てる距離から点取りを行なう。午後午前中に射てなかった距離の点取りを行ない、シングルの点数を取る。残りの時間は、フリーにして各自各距離の練習をする。
- ・夜のミーティングでは、アメリカのオリンピック選手のジェイ・バース、リック・マッキニー、シェリー・ブロックなどの一流選手の射型、リズムなどを、間近で見る機会がたくさんあるので、積極的に見ることに、1,300点以上を楽に射つ韓国選手にも同じことがいえる。このような機会は、日本にいたのでは、絶対経験することができないのだから、一挙手一投足まで見落すことがないよう、よく研究することが大切だと。ただ考えもせずに真似をしないこと等々、話し合う。

◎7月19日 晴れたり曇ったりの天候、風が少しある

- ・午前6時30分起床、7時体操及び軽いトレーニングを行なう。9時30分から4時まで、公式練習に臨む。ここで初めて、ユニフォームを着用、いよいよ試合が始まるという緊張感が各自に見られた。参加した選手は、トップアーチャーから、ビギナーまで、また、老若男女が一同に会しての光景は、全米選手権が、単なる競技会ではなく、幅広い意味で、それぞれが弓を楽しんでいる感じさえしました。外では、選手の家族が思い思いの場所にテントを張り、その中で、明るく楽しい会話が聞かれたり、心配そうに見守っている両親の姿が、とても印象に残っています。アメリカ人のスポーツに対する考え方が、

多少なりとも解かったような気がしました。

- ・午後8時からレセプションが行なわれ、参加者一同大変明るく楽しい時間を過ごすことができました。高校生（特に女子）は、言葉があまり解からなくても、すぐ友達になって、楽しく過ごしていた。同じスポーツをしている仲間同志という親近感からか、また、同じ目的を持った者同志、言葉は解からなくても、相手の気持ちは理解できたようだ。韓国選手と写真ととりあったり、1時間程楽しい時間を過ごす。男子が、明日の試合が早い為、9時にレセプション会場から引きあげ、全体のミーティングを行なう。いよいよ、明日から試合である。

◎7月20日 雲り。午後雷雨

- ・午前5時30分起床（男子のみ）、6時体操、ストレッチ等、6時30分から大学の食堂で朝食、そのまま会場へ。
- ・8時競技開始（男子長距離90M・70M） 風が横から吹く中で、高校生2人が良く頑張り、2位、3位につける。2人共、気後れすることなく、平常心で射てたのが、好結果につながった。困りもわりにリラックスしたムードだったのが良かったのかもしれない。
- ・今年の全米選手権には、約400名以上の選手が参加しており、2立制で実施、高校生は、高校生だけのグループで射っていたので、比較的和やかの中にも適度の緊張感を持たせて射てたようだ、男子長距離は、12時30分に90M・70Mの競技が終了する。
- ・1時間20分競技開始（女子70M・60M）高校生3人共マイペースで射っており、男子同様こちらも2位、3位の好位置につける。4時70M終了、60Mに入る時に、雷雨があり、約1時間30分の中断がある。各選手共、雨に濡れないよう、寒さ対策をして、中断の間待つ。今回の全米は、例年になく、雨や雲りの日が多く、日本の梅雨を思わせるような、ぐずついた天候が続き、アメリカはととても暑く日差しも強いサングラスは必需品と聞いていただけに、面喰う。この地方は、1ヶ月前から異常気象が続いているとのこと。
- ・5時20分頃、まだ小雨が降るなか、60Mの競技が再開される。角田は、依然リズム良く射っており、2位をキープ、多少のミスはあったが、大きく崩れることなく、何とか持ち堪え2位をキープして終了。岡野は、終盤ミスが出て、3位から後退する。矢が時々黒や青にまで出る。坂口も自分なりに精一杯頑張っているが、点数に結びつかない。

1日目女子長距離が終了したのが7時20分頃になってしまった。

- ・通常日本の競技会では、2立制で3時間30分ぐらいだが、こちらアメリカでは、5時間はゆうにかかる。普通でも、朝8時に開始しても、夕方6時を過ぎてしまう、9時過ぎまで明るいサマータイムのアメリカだから出来る試合運営であり、これがまた、この試合の大きな特色の一つでもあるようだ。それにしても、競技役員も大変、朝7時から夜の7時過ぎまで、競技会に携わっている、それも4日間もである。しかし、いやな顔一つせず、終始にこやかに対応している姿は、さすが、108回の伝統を誇る全米選手権ならではのものであり、我々も見習う必要がある。
- ・競技会は、あくまで選手が主役であるという理念が、この全米選手権にはあるようだ。失礼だが、役員は、現役を退いたそう若くない人達が責任者として、威風堂堂と競技の進行を行っている。進行は、全て笛の合図で行っており、機械化されたブザーや信号機と違い、何か新鮮で暖かみすら感じる。広いアメリカだからこそそう思えるのかもしれないが、全てにユツタリした競技運営であり、これもまた、全米選手権の特色の一つでもある。

◎7月21日 小雨が降る寒い天候

- ・ 5時30分起床（女子のみ）。6時体操及びストレッチ。6時30分朝食。7時15分会場へ。
- ・ 8時女子短距離競技開始。3人共元気良くシューティングしている。悪コンディションにもかかわらず、50Mは、角田308点、岡野285点、坂口276点、とまずまずの成績である。引き続き30Mの競技に入る。相変わらず天候が回復せず肌寒い。角田は、依然調子良い。結果は、角田341点、岡野333点、坂口332点とまずまずの結果で1時30分競技終了。
- ・ 女子に続き、男子の競技が1時30分開始、相蘇、松山共に調子が良い、この頃になって、やっと小雨も止み、時折、陽射しもさし、少し暖かくなってきた感じがする。結果、50Mは相蘇298点、松山314点と好成绩に笑顔が出る。引き続き30Mに入る。松山は依然調子が良いが、相蘇がやや崩れる。結果、相蘇323点、松山343点の成績で7時に競技が終了する。
- ・ ダブルF I T Aの前半が終了し結果が出る。変則的な競技日程、天候不順、慣れない環境、競技時間の長さ等、どれをとっても、好条件とは言えないなかで、松山が1,216点の試合新、角田が1,242点の自己新を出したことは、初めて経験した海外試合での成績としては、大いに称讃できる結果であった。

◎ 7月22日、23日と前半と同じ日程で競技が行われる。

- ・ 最終結果は、角田義美が、台湾の選手と最後まで優勝を争ったが16点の僅差で2位に入賞する。岡野善恵は5位、坂口絵理は6位。松山義一は、メキシコの選手と2位争いをしたが、8点差で3位に入賞する。相蘇義章は5位。以下は、全員のダブルF I T Aの成績である。

〈第108回 全米選手権試合結果〉

(女子)

氏名	70M	60M	50M	30M	TOTAL
角田義美	288	305	308	341	1,242
	283	326	294	334	1,237
岡野善恵	271	280	285	333	1,169
	260	293	290	320	1,163
坂口絵理	244	276	276	332	1,128
	287	304	283	316	1,190

(男子)

氏名	90M	70M	50M	30M	TOTAL
松山義一	262	297	314	343	1,216
	276	289	293	342	1,200
相蘇義章	273	294	298	323	1,188
	266	305	296	320	1,187

《おわりに》

- ・ 全ア連のジュニア派遣の目的は、近い将来、国際競技大会での活躍が期待されるジュニア層（中学、高校、大学）を育成強化する為、海外における競技会等に派遣し、競技力向上を計るとしている。
- ・ 全米選手権は、そういう意味において、初めて海外試合に出場する選手にとって、色々な経験をさせる為の条件が整っていると思う。
- ・ また、全ア連強化部の方針、ジュニアの海外派遣は、すべて国際人としてより大きくなる為の通過点、つまり、オリンピックへの第一段階であり、その中で、点数を出せるに越したことはないが、第一目標は、世界への目を広げる（世界への目覚め）ことであり、国際交流という面からも、外国の様々な経験を積ませることに、派遣の意義があるとしている。
- ・ 参加した高校生の感想を読んでも、やはり、色々と経験ができて大変勉強になったと、

- 異口同音に書いている。また、試合では、結果は別として、与えられたその状況の中で、いかに自分自身の今持っている力を最大限生かして努力したかということが、大切なことであり重要な要素は一つでもあるということを選手は、身を持って体験出来たと思う。
- ・ “百聞は一見に如かず” 経験は貴重な財産となって、一回りも二回りもより大きく成長してくれることを祈りつつ、全米選手権の感想とさせていただきます。
 - ・ 最後に、このような貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。改めて、関係機関にお礼を申し上げますと共に、今後、微力ながら、ジュニアの育成の為の手助けができるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。



第108回全米選手権大会結果報告

日本代表チーム男子コーチ

滋賀県立北大津高等学校教諭 立 入 彰 修

《遠征男子構成メンバー》

キャプテン	近 畿 大 学	上 田 訓 久
	近 畿 大 学	徳 永 賢 二
	専 修 大 学	宮 崎
	東 京 工 業 高 校	松 山 義 一
	北 海 道 旭 川 北 高 校	相 蘇 義 章

《日程及び記録》

- 7月16日 午後4:00 無事成田出発
機内では全員くつろいでいるようだった。
- 7月16日 午後9:10 マイアミ大学に少し疲れたようすで到着。
着後はミーティング無しで、明日午前8:00玄関集合を告げてシャワーと部屋の整頓を指示する。
*途中選手は疲れたようすだったが宿舎に着いてシャワーを浴びたら元気になったようすだった。
- 7月17日 午前8:00玄関集合。
体操、ストレッチ、ランニング等を少し多めにし汗をかかす。
10:00~12:00 練習徳永のサイトエクステンションが輸送中に曲がってしまったので相蘇のを借りる。徳永はショックらしく、しょげていたのでなだめる。
時々小雨が降り風も強かった。
12:00~13:00 昼食
14:30~16:45 練習(早くもアメリカ人と話をする者もいた。)
17:00~20:30 町へ食事に行く。
20:45 ミーティング 全体ミーティング後男女分かれてミーティング。
*練習内容は各個人にまかせる。
(全米での個人目標。)
上田:ディズニーランドでおもいきり楽しめるように、悔いの無い試合にしたい。
徳永:これからの自分に精神的にも技術的にもプラスになるような試合にしたい。
宮崎:他の国のアーチェリーに対する心構えを体当たりで学んで行きたい。
松山:気候に応じて、トップのスコアに我慢強くついて行けるようにしたい。
*今日の練習を見てみて最終の合宿よりも調子の良かった者が3名いた。昨年の私の反省(世界Jr.選手権)を踏まえて、この好調を外人に見せつけてやろうと思わないように注意する。あくまでも自分は自分なのだ。決して

背伸びをして外人に良いところを見せてやろうとしないように。

- 7月18日 7:00~7:30 体操およびストレッチ
 7:30~9:00 朝食等
 9:00~12:00 練習 射てる距離から射ちシングルの点取りを指示する。
 12:00~14:00 昼食等
 14:00~16:00 練習
 17:00~20:30 夕食等
 20:30 全体ミーティング

*明日のタイムテーブルの説明

公式練習・弓具検査の内容説明

宮崎が韓国選手の射型に洗脳され真似をしようとし、自分を見失い射型をくずしていたので、自分は自分だともう1度注意する。

全米はあくまでも通過点であり、決して最終目標ではない。今の自分の力を最大限発揮し、結果を恐れないよう注意する。

	90M	70M	50M	30M	TOTAL
上田	264	299	296	327	1186
徳永	220	259	291	287	1057
宮崎	255	274	302	337	1168
相蘇	213	270	306	319	1098
松山	272	291	323	330	1216

- 7月19日 7:00~7:30 体操とストレッチ
 8:00~9:30 朝食等
 9:30~16:00 公式練習 この間自由に昼食
 17:30~20:00 夕食
 20:00~21:00 レセプション
 21:00~21:30 ミーティング

*明日の的番確認

明日へのチェック・あまり緊張していなかったので少しは緊張して、気を引き締めること。

いよいよ4日間という長丁場の試合が始まる。1本や2本のミスで悲観しないこと。4日間は長いことを認識さす。

- 7月20日 6:00~8:00 体操 朝食 準備運動
 8:00~13:00 長距離競技
 13:00~17:00 昼食と市内見学
 17:00~19:30 夕食
 19:30~20:00 女子競技の応援
 20:00~20:30 ミーティング

*全員昨日の注意を守って伸び伸びと元気よくシューティングしていた。明日も今日の調子で頑張るよう励ます。

得点および個人の反省

上田 271・290：：561

思ったより点数がでなかった。でだしの調子ではトータル600点以上でたと思う。

徳永 283・293：：576

最近の調子からすると満足のいく点数だが70M最後の0点がかくやしい。

宮崎 264・291：：555

スコープにたよりすぎて自分のシューティングリズムをくずしていた。

相蘇 273・294：：567

集中力に欠けた面があったので明日は注意する。

松山 262・297：：559

焦らないで落ちついて射ちたかったが、風にまどわされて焦って射ったので明日は落ちついて射ちたい。

7月21日

7：00～7：30 体操・ストレッチ

7：30～8：30 朝食と女子の応援

8：30～11：30 フリー練習

11：30～13：30 昼食とフリー練習

14：00～19：30 短距離競技

19：30～20：45 夕食

20：45～21：15 ミーティング

*今日は気温も低く肌寒かったが、松山が短距離657点の自己ベストを射ったので祝福する。

72本に5時間30分程度かかる長時間の試合だったが、徳永を除いた全員が落ちついて試合運びができた。(徳永はサイトマウントの故障により50M前半で自分を見失いかけたが、なんとかなだめて落ちつかす。)

明日も頑張るよう激励する。

得点および個人の反省

上田 311・331：：1203

昨日は緊張していたんだなと思った。(今日は楽しくアーチェリーができた。)

徳永 278・330：：1184

前半はあまり気持ちよく射てなかったが後半はよかったので、明日は気持ちよく射ちたい。

宮崎 293・326：：1174

明日は頑張る。

相蘇 298・323：：1188

50M前半はよかったが後半集中力を欠いたので明日は頑張りたい。

松山 314・343：：1216

今日は昨日みたいに外人が回りにいるからとっておどおどしていなかった。明日は日本人といっしょに射っている感覚で試合したい。

7月22日

6：00～6：30 体操・ストレッチ

6：30～7：00 朝食

8 : 00~12 : 30 長距離競技

12 : 30~14 : 00 食事

14 : 00~17 : 00 自由行動

17 : 00~20 : 00 夕食

20 : 00~20 : 30 ミーティング

*徳永が90M途中より首すじから引き手の肩にかけて痛みをうったえる。それによりだいぶ落ち込んでいたが、決して試合を捨てないよう注意する。(テーピングをし明日の様子を見る。)

徳永はそれを素直に聞き入れ、良い経験ができたようだった。

初日の長距離より全員が点数アップしたのでみんな気分をよくしているようだった。明日は今日以上当てて外人にいいところを見せてやろうと思わないよう注意する。

得点および個人の反省

上田 293・319 : : 612

曇天無風で射ちやすかった。90M後半から70M前半にかけて点数を意識して、ミスが多かったので明日はマイペースで試合したい。

徳永 276・312 : : 588

しんどかった。自分でもよく我慢できたと思う。明日も耐えて頑張る。

宮崎 246・308 : : 554

90Mの初め悪かったが会を重ねるごとにグルーピングがよくなったので明日は最後なので頑張る。

相蘇 266・305 : : 571

70M後半になって自分のフォームが解ってきた。肩をしっかりと決めてから射てたので明日はフォームを考えて射つ。

松山 276・286 : : 562

今日は昨日までと違って回りに上手な選手がいて、回りにみとれてしまった。その結果として自分を忘れていたので明日は自己中心になって頑張る。

7月23日 7 : 00~7 : 30 体操・ストレッチ

7 : 30~8 : 00 朝食

8 : 00~11 : 45 自由練習

12 : 15~13 : 20 準備運動等

13 : 20~19 : 30 短距離競技及び表彰式

19 : 30~20 : 30 夕食

20 : 30~21 : 30 全体ミーティング 団体戦の説明

21 : 30~21 : 45 男子のみミーティング

*得点および個人の反省

上田 303・336 : : 1251

短距離が弱いのでこれからは集中力が続くようにしてゆきたい。

徳永 314・341 : : 1243

肩もだいぶ良くなって(痛みがなくなった。)本来の自分の射ちかたができたのでよかった。

宮崎 296・344 : : 1201

なんとか後半はよかったのでこれからは長距離を強くして行きたい。

相蘇 296・320：：1187

自分の満足のゆく点数はできなかったけれど、ベストを尽くせた。

松山 302・344：：1208

自分のことだけを考えて射ったときはよかったのでこれからはそうして行きたい。

*個人戦はこれで終わったが、明日は団体戦があるのでもう一度引き締めなおして試合に挑むように注意して終わる。

7月24日 7：00～7：30 体操・ストレッチ

団体戦競技

この団体戦はアトラクション的要素が強く、足切りのインフォメーションも2転3転し、集中力に欠けた。

7月25日 マイアミ大学からロスアンゼルスへ移動。

7月26日 ディズニーランド見学

7月27日 日本へ出発

7月28日 無事日本へ帰国

《最後に》

私は昨年の世界ジュニアに引き続き、第108回全米選手権に男子コーチとして参加しました。今回の遠征メンバーは昨年と違い、高校生だけでなく大学生も含まれておりました。大学生と言いましても高校時代には選手権大会や国体・選抜大会で活躍していた選手でしたので、高校生を見ているような気持ちで引率しました。また、2年間続いての海外遠征に私自身もかなり余裕ができたように思われます。例えば、欧米人に対する接し方・挨拶の仕方・食事のマナー・空港での搭乗手続き等を身をもって選手に示せました。何事にも感じやすい年頃の選手にはそのような些細なことでも、監督・コーチが余裕を持っているとかなり落ち着くように今回思いました。

今回の海外遠征試合で私は選手に全米は最終目的ではなくシニアの大会へ出場するための通過点であると、言うことを認識させ、何事も勉強であり、それを自分の物にするよう指導したつもりです。選手もそれをよく理解してくれ、昨年の世界ジュニアよりは多少なりとも良い結果が残せたと思います。高校生にとって海外遠征はややもすると、まるでオリンピックや世界選手権に出場したかのように舞い上がってしまい、自分を忘れてしまいがちです。(本人はその気がなくても回りの激励等で興奮してしまうのです。) JOCでも試合結果についてはなにも問いません。シニアになってから海外を経験するのではなく、ジュニアで一度経験しておくとならば随分余裕も出てきます。また、海外試合の結果が良くても悪くてもその経験を活かし、より一層の努力をし、次代を担う若手選手が出てくるのを期待しているのです。今年度全日本の覇者枯木選手・オリンピック選手の山本、於久、中込、池田等4選手もジュニアで全米選手権に出場した選手です。

近年の全日本選手権での高校生・大学生の活躍には目を見張るものがあります。近い将来高校生での複数の1300点アーチャーの出現も可能であると私は確信しております。アーチェリーの競技方法もここ数年で大きく変革しました。バルセロナオリンピックでも十代の選手が活躍したように、誰にでも優勝のできるチャンスがある競技に変わってきました。今ここで日本が立ち後れたら日本はアーチェリー後進国になってしまいます。インターハ

イ優勝に留まらず、全国で指導されている先生がたの情報交換で、より良い指導方法・練習方法、また勝つための理論を皆さんで考案し、夢は大きく高校生アーチャーでの世界制覇に向けて今後も努力しなければならないと思います。

《記 録》

SENIOR GENTLEMEN VISITOR 参加人数 44名

氏 名	90M	70M	50M	30M	TOTAL
上 田 訓 久	271	290	311	330	1203 (14)
	293	319	303	336	1251 (8)
					2454 (10)
徳 永 賢 二	283	293	278	330	1184 (20)
	276	312	314	341	1243 (11)
					2427 (17)
宮 崎 克 己	264	291	293	326	1174 (22)
	246	308	303	344	1201 (19)
					2375 (20)

INTERMEDIATE GENTLEMEN VISITOR 17名

氏 名	90M	70M	50M	30M	TOTAL
松 山 義 一	262	297	314	343	1216 (2)
	276	289	293	342	1200 (4)
					2416 (3)
相 蘇 義 章	273	294	298	323	1188 (5)
	266	305	296	320	1187 (5)
					2375 (5)

第108回全米選手権大会結果報告

日本代表チーム女子コーチ

穂 莉 美奈子

1. 派遣選手

今回派遣された女子Jr.選手は、栗森倫代（近畿大学3年生）、岡野善恵（甲南女子高校3年生）、坂口絵里（柏陵高校3年生）、角田義美（虎姫高校3年生）の大学生1名と高校生3名の合計4名であった。

2. 現 地

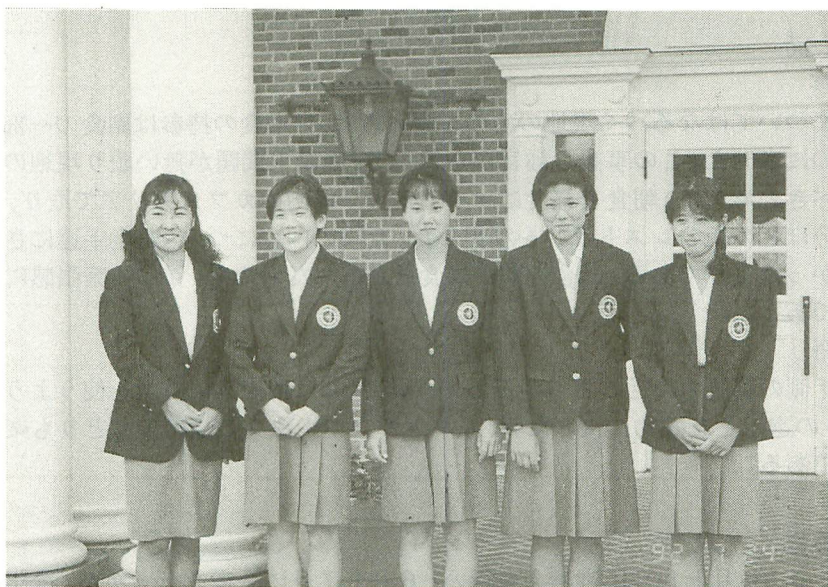
(1) 練 習

現地に到着してから公式練習を含めて3日間の練習日が持てた。2日目にシングルラウンドの点をつけさせた以外はなるべく自由にし、選手自身の考えで練習させた。ほとんどの選手が与えられた時間はフルに練習していて、公式練習も同様であった。

2日目から練習場に他の選手が増え始め、雰囲気盛り上がりしてきた。

(2) 競技日程

個人戦は7月20日から23日までの4日間で、団体戦は7月24日に行われた。個人戦は午前と午後で男女の競技が入れ替わる変則的な日程であったが、そのことによって大きくペースを崩した選手はいなかったようである。



女子チーム 左より 穂莉、岡野、角田、坂口、栗森

(3) 競技結果

大学生1名はSenior Visitor部門に出場。高校生3名はIntermediate Visitor部門に出場した。団体戦については、個人戦の結果で上位3名を日本チームとして出場させた。

結果は以下の通りである。

個人戦	70M	60M	50M	30M	合計	総計	順位
栗森倫代	283	321	280	327	1211	2439	11位
	293	319	289	327	1228		(19位)
角田義美	288	305	308	341	1242	2479	2位
	283	326	294	334	1237		(2位)
岡野善恵	271	280	285	333	1169	2332	5位
	260	293	290	320	1163		(9位)
坂口絵理	244	276	276	332	1128	2318	6位
	287	304	283	316	1190		(10位)

() 内はアメリカの選手も含めた順位

団体戦	1st round	2st round	合計	順位
栗森倫代 角田義美 岡野善恵	905	914	1819	2位

(4) 生活面

① 食事

食事についてはなるべく現地のを食べさせ、日本食の持参は副食の一部になる程度のものにさせた。この事業の趣旨から言って、健康上問題が無い限り現地の食事を取らせるべきと考えた。朝食と昼食はマイアミ大学構内のカフェテリアで取り、夕食は歩いて15分ほどの街のレストランを利用した。食事の内容について、選手達にさほど違和感は無かったようである。試合期間中は食欲が落ちたものもいたが、緊張感によるものようであった。

② 英語

コーチ側の英語力の乏しさも手伝って、選手たちは積極的に英語を使うよう努めていた。周りの選手と友好的に接したり、レストランでの注文の際のやりとりも楽しんでいた様子である。

3. 成果と感想

派遣にあたり、4月と5月に選考会を行い、6月と7月に合宿を行ったが、今年はオリンピック年であったため両方ともオリンピック事業と合同で行われた。このことがJr. 選手達にとって大変良い刺激となり、「自分もオリンピックに出たい」「自分もやれる」という感じを持ったようである。この時点ですでに1つの成果が上がっていたと言えるだろう。

さらに実際の派遣を経験し、日本の代表になって海外で競技することへの強い気持ちを抱いたようである。実際に競技してみて「自分もこれならやれる」という感触を持ったり、「こ

のままでは悔しいから必ず世界に出て競技できる選手になる」と決心したり、と言う具合である。これらの気持ちは大きな原動力となって、選手個人にとっては勿論のこと、日本アーチェリー界の将来に必ずつながっていくものであると確信している。

ところで、今回の派遣の目標の一つに、“選手としての独立心を持つ”ということが挙げられていた。海外に出ればひとりですべてを判断しながら競技しなければならないので、それを経験させるということだった。日本の女子全体に言えることだが、自分で判断し、決断していく機会が少ないせいか依頼心が強く、そのことがアーチェリー競技のような個人スポーツをやる上でマイナスに働いている場合が多いようである。今回派遣された選手達はこの事についてもよく考え努力し、こちらの意図したことに対する成果を充分達し得たと感じてる。

世界のトップレベルから、大きく立ち遅れてしまった日本の女子アーチェリー界にとって、Jr.選手の育成に力を注ぐことは、大変意義のあることであり、何より選手自身が世界で活躍したいという希望を強く持つことが、大変重要となっているのである。もとより、成果についてはJr.強化選手本人にとどまらず、周りの選手への波及効果についても強く期待するものである。

4. 今後の課題

全米派遣は“国際競技力の向上”という目的を、多くの面で果たし得る要素が含まれている。しかし、今後は根幹にかかわるスコア面でのより強い刺激も必要と思う。1300点は普通でこれを出さないと通用しないという場を経験させたい。全米と韓国派遣—これが叶うならば、今のところ最良の刺激となるであろう。

1992全国選手権大会優勝校（男子）

克己の栄冠

横浜高等学校アーチェリー部

顧問 池田 幸一

本校アーチェリー部の顧問になってはや6年、全国大会ではいつも一歩及ばず2位ばかり、今年度の優勝は、横浜高校にとって様々な記念すべきことがあり、素直に喜んでおります。ご存知とは思いますが、20数年間顧問を続けておりました戸谷宏遠先生そして、ロス五輪銅メダリストの山本博選手、この兩名あってこそ今日の横浜高校アーチェリー部が活躍できていると思います。とくに戸谷先生は、昭和43年創部以来、全国優勝3回、個人でも数多くの名選手を育てました。『僕はアーチェリーを知らないから君達に任せるよ』といつも口癖のようにいっておられました。精神面でのアドバイスはなくてはならないもので、生徒達全員が頼っておりました。人柄のよさもあり、特に礼儀には人一倍厳しく我々を指導して下さいました。そんな戸谷先生も4年度限りで定年を迎えます。

また、現在活躍されている山本博選手。彼の高校時代は正にアーチェリー一筋でした。部活動の運営を一切を一人で取り仕切り、練習は常に真剣で真面目、そして後輩達を育てようと必死でした。遠征試合の度に一周りも二周りも大きくなって帰ってきます。

当時後輩だった私は彼の練習にひたすらついて行くのに夢中でした。丁度、今市販されているビデオテープがありますが、高校時代の彼の指導内容そのものでとても懐かしく感じます。現在も彼が中心となって活動した内容が伝統となり受け継がれています。

このような中で現在3年生3名、2年生12名、1年生5名の計20名が先輩の残した伝統を守り日々努力をしています。普段の練習は3：15～6：30まで、トレーニングも含み、近射・50mを中心に行っています。特別な練習内容ではないと思いますが、本校の生徒は、部活動の練習以外に自主的な練習を行っているのが特徴です。

早朝や夜間など、けして私の方から強制することなく、いつどんなときでも誰かが練習を行っています。試合の選手を選考するときなどは早いもので朝5時頃から、夜も9時まで多く射つ者は1週間に約五千本も射っています。幸い私の自宅も学校から5分ぐらいの所ですからいつも感心しながら見ております。本校で3年間アーチェリーを経験し、卒業していく者で600点以上射てなかった者がここ数年誰もいなくなりました。これは以前からの私の目標で、今後もちろん続けて行きたい事です。

私の役目といえば良き伝統を守り続ける事、環境を整える事、そして子供達の素質を伸ばす事と考えております。本校の射場は50・30が2ヵ所、崖の斜面にあり、最近は的の裏に住宅が建つようになりました。安全にいつでも練習できるように施設を整備しております。近年、神奈川県のアチェリーのレベルも向上し、県大会も油断できなくなりました。けれども本校の生徒はたいへん素直な子が多く言葉で理解してくれます。

ここで子供達のクラブの感想や思い出を聞いてみました。

第24代主将 山田一範（2年生）

アーチェリー部に入り一番驚いた事は、上下関係の厳しさです。これは今思うと全てアーチェリーへの精神的トレーニングだと感じます。私はアーチェリーが精神的な面と射型や

筋力などが半々でやっと成り立つスポーツだと思っていますので本校の部は恵まれていると思います。

我々の毎日の練習は、試合を意識した方法で行っています。技術指導して下さるのが顧問の先生や先輩方です。筋力トレーニングなどで辛いときもありますが、毎日充実した練習をしています。これからも卒業されて行った先輩形の素晴らしい伝統を誇りに思い受け継いで行きたいと思います。

第23代主将 七沢 信（3年生）

3年間やめない事。先輩より早く登校する事。目上の人に対する挨拶をしっかりと行う事。この3つが入部したときの条件でした。言葉にすれば簡単な事ですが、横浜高校でこのことを守るのはとても大変です。私の入部した頃は仕事が嫌になるほどたくさんありました。もちろんアーチェリーの練習もしなければならぬし、射場の土手に生えている草を刈ったりなど、最初は十数人いた1年生も一人、二人と減り、最後はたった3名になってしまいました。私も何度かやめようと思いましたが、先生の指導や、先輩の真剣な練習態度にひかれ、ついて行けるようになりました。一年生の頃の苦労が実り、全国大会や国体にも出場させていただき、いろんな経験が出来てとても素晴らしい高校生活が送れたと思います。私はもう卒業しますが、横浜高校でアーチェリーが出来た事を誇りに思い、これからもアーチェリーを続けて行きます。

最後に、私のアーチェリー経験の中で一番後悔している事が、高校3年の全国大会で3点差に泣き、優勝出来なかった事があります。皮肉な事に今回の優勝が3点差でした。なんともいえない気持ちでしたが、一生懸命戦ってくれた子供たちにとっても感謝しております。今後はルールも変動し、手掴みの状態が続くと思いますが、横浜高校の伝統と子供達の努力がある限り、私自身も気を引き締めて努力して行きたいと思います。

横浜学園アーチェリー部の紹介

横浜学園高校アーチェリー部

顧問 若林 武正

本校は創立92年の神奈川県内で宗教色の無い最も古い女子校です。この長い歴史の中で本学園には沢山の人がかかわりを持って来ました。教師として歌人の与謝野晶子・平野宣紀、作家の中島敦、英文学者の岩田一男、音楽の渡辺はま子の各氏、生徒としては、2・26事件時の侍従長及びポツダム宣言を受諾した鈴木貫太郎首相の孝子夫人、女優の原節子さんが在学していました。特に中島敦は英語、国語を担当して在職中にもさまざまな作品を発表し「かめれおん日記」には当時の学園の様子も書かれています。今年は没後50周年にあたり、県立近代文学館で「中島敦展・一闪の光芒」が開かれ、また区立南公会堂に於いては全校生徒に「名人伝」の朗読会が開かれ、まさに我がアーチェリー部の全国優勝を祝したような催しであった。この様に歴史の古い学園はスポーツも盛んで、特に水泳部は昭和29年（1954）から昭和57年（1982）まで連続28回のインターハイ出場記録をもち、その他昭和26年（1951）発足41年の歴史をもつソフトボール部、体操部等が強く、それに刺激されて昭和53年（1978）にアーチェリー部が出来、この年の第11回青森大会から出場し県内で台風の目・卵と呼ばれるようになった。それ以来現在まで「楽しみながら常に上位をめざすアーチェリー部」をモットーに練習に励んだ結果、平成元年頃から努力が実り、2年度に全国大会9位と念願の一桁入を果し、3年に全国大会団体6位、個人6位、石川国体団体4位、第12回関東大会団体優勝と力を付け、4年度は遂に全国大会団体優勝、第34回全日本選手権大会で松坂裕美が高校生として初栄冠、第11回関東選抜大会優勝、山形国体に3名の選手を送り出して団体4位、個人3、5位、第13回関東大会2連勝、第10回全国選抜大会3、4位、第1回全日本室内競技大会では春元和恵が2位に入り、今年は横浜学園アーチェリー部にとって実に充実した年であった。この成果は日頃の練習が実を結んだもので選手が毎日2～3時間の練習を量から質に重点をおき週一度試合形式で記録会を行い自己ベストに挑戦している。この他市民・県民大会に数多く出場して技量を磨いている。顧問はクラブ結成時から選手共々口ぐせのように「捲土重来」を合言葉に日々研鑽し選手はこの努力によく自己の力を信じ励んでいる。今はこの成果を心の糧として精一杯練習を行っているので御期待下さい。

第25回全国高等学校アーチェリー選手権大会優勝写真



	選	マ	顧
春松山阿手篠	マ	ネ	若
元坂岡部	ネ	ー	問
和裕麗順	ジャ	ー	林
恵美子子	ー	ル	武
	代	正	

〔学校紹介〕

平成6年度「わかしゃち国体」に向けて

東邦高等学校アーチェリー部

顧問 今井通昭

本校は、1923年（大正12年）に東邦商業学校として設立され、現在は商業科及び普通科（普通コース・国際コース・理数コース）、そして本年度新設の美術科からなる男女共学の総合学園です。クラブ活動が大変に盛んであり、その中でもとりわけ硬式野球部は甲子園の常連校となっており、全国的にもよく知られています。

さて、我がアーチェリー部ですが、愛知県下の高校アーチェリー部としては最も歴史が古く、1968年（昭和43年）創部以来、これまで特に際立った実績というものは残していませんが、地味な中にも部員一人一人が目標を持って地道に活動を続けてきています。

特に1985年（昭和60年）から男女共学となり（それまでは男子校）、学園にも華やかさが加わるとともに、アーチェリー部にも多数の女子生徒が入部するようになり、それまでとはまた違った雰囲気の中で、男女共々一致団結して練習に励んでいます。その結果、ここ数年度々全国大会のひのき舞台にも顔を出せるまでにいたり、さらに全国大会での上位入賞を目指して、毎日練習にトレーニングにと頑張っています。

〈ここ数年に出場した全国大会〉

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1987年 3月 | 第5回全国高等学校アーチェリー選抜大会 |
| 7月 | 第20回全国高等学校アーチェリー選手権大会 |
| 1988年 7月 | 第21回全国高等学校アーチェリー選手権大会 |
| 1989年 3月 | 第7回全国高等学校アーチェリー選抜大会 |
| 7月 | 第22回全国高等学校アーチェリー選手権大会 |
| 1990年 3月 | 第8回全国高等学校アーチェリー選抜大会 |
| 7月 | 第23回全国高等学校アーチェリー選手権大会 |
| 1993年 3月 | 第11回全国高等学校アーチェリー選抜大会 |

私自身は1986年（昭和61年）4月に本校赴任と同時に、当時のアーチェリー部の顧問をされていました則竹先生（現在の校長先生）の下で、私にとっては全くの未知のスポーツであるアーチェリーというものにたずさわっていくことになり、ただでさえ日常のまだまだ十分とはいえない担任業務に悪戦苦闘している中、不安感で一杯だったことを覚えています。とにかくその不安を振り払うには、不安を忘れる位に一生懸命になるしかないと感じを決めて、毎日無理してでも授業後に時間をとり、それこそ部員と一緒にトレーニング

ニングをやり、素引きをやり、近射をやり…という具合で、ついには少ない給料をはたいて弓具一式を購入し、なんとかクラブの中にあっても格好がつくような存在になっていったものです。今思えば、よくもまあそんなエネルギーがあったものだと感心してしまいます。しかし、逆にそうした未熟ながらも積極的な姿があったからこそ、多少の失敗はあったにせよ、とにかく部員達を少なからず本気にさせたことは事実でしょう。現在は当時程のエネルギーはありませんが、部長を中心に楽しい中にも常に前向きの姿勢を持った規律ある集団として、またそのように部員各人が自覚できるような集団に育てたいと考えています。

一つ問題点があるとすれば、校内における練習場の問題でしょうか。なにぶん、それ程広くはない学校内に数多くのクラブがひしめいているので、そんなに贅沢はいえないわけですが、しかし、それにしてもアーチェリー部の練習場は狭く、校舎裏の日の当たらないつつい心細くなってしまふような場所で、最大距離は30m、一度に4人立つのが精一杯という非常にささやかなものです。そんなハンディーにもめげることなく、いろいろと各人が工夫を凝らしながら、与えられた条件の下で熱心に練習に取り組んでいます。時に試合前になると、校外にある有料のアーチェリー場まで出かけてゆき、50m以上の距離を中心に練習し、本番の試合に備えます。

夏休みには、毎年恒例の夏合宿を実施しています。8月上旬からお盆にかけての一週間をとって、信州白馬の麓でそれこそ汗まみれになりながら、アーチェリーづけの生活を味わっています。



〈夏の合宿での練習風景〉

一つ残念に思うことがあるのですが、本校に限っていいますと、部員の中で卒業後もアーチェリーを続けてゆくという者が極めて少数だということです。クラブ推薦で大学へ進学する場合を除いて、進学する者にしろ就職する者にしろ、卒業したらアーチェリーとは縁が切れてしまうという例がほとんどで、いろいろと難しい問題があるにせよ、できたら高

校卒業後も、今度は自分のペースで自分自身のアーチェリーを楽しんでいてもらいたいなあと思ったりしています。

私自身、かつては試合に勝利することだけを考えて、そのために部員の気持ちを無視して自分の考えを強引に押しつけたり、無理な形での選手管理をしようとした時期もありましたが、最近では部長を前面に立てて部のまとまりを第一に考えるようになり、部員一人一人の意見や考え方を積極的に取り入れるようにしています。(自分自身の校務上の問題で、以前と同じような調子でクラブ指導に没頭できないということが多分に原因しているのかもしれませんが)。

本校の場合、アーチェリー部に入部してくる新入生をみていると、もちろん全員が未経験者で、それどころか、中学時代に運動クラブにも入っていなかったという者が案外目立ち、軽い気持ちで入部したところが、意外とハードであることがあとになってわかってきて、途中から練習に顔を出さなくなるという例が多々見受けられます。その他、社会の情勢の変化とともに、入部してくる生徒の移り変わりにこちらの対応も遅れないようにと、様々な事柄で気を使う場面が増えてきました。このように、考えれば考える程問題は山積しているわけですが、現在とはとにかく、来年度愛知県で開催される「わかしゃち国体」へ向けて、東邦高校アーチェリー部としても最善を尽くすべく精進してゆくつもりです。

我部の歩み

愛西学園 弥富高等学校

顧問 萩原茂樹

本校は学園名の通り愛知県の西端に位置し、宇宙実験で用いた金魚で有名な弥富町にあります。アーチェリー部は創部して9年目を迎えています。創部のきっかけは「今後、進学校でも有名校でもない我校の生徒に自信をつけさせるのはアーチェリーだ」と現在駅伝部顧問の佐藤友行先生が同好会を造ったことでした。当時、陸上部を持つたわら自ら名古屋のアーチェリー教室へ通ったそうです。翌年、そこへ私が赴任してくるわけです。大学時代2部リーグでは優勝したものの1部との入替戦で負けた悔しさのまま学生時代を終えた私は「高校でアーチェリーをやり、果たせなかった夢を実現しよう」とアーチェリーのある今の高校を受けたのでした。このめぐり合わせがなければ弥富の部顧問としての私はなかったわけです。

さて、創部2年目の昭和60年、教員として採用された私はアーチェリー部コーチとしてスタートしました。名はコーチではありましたが部はほとんど私にまかされていました。創部1年目の部員は全員2年生でしたので、この年には3年生と1年生という変則形で、夏過ぎには3年生が引退し、1年生だけのチームとなりました。創部2年目にして幸いにも部に昇格したものの、すべてがほとんどゼロからの出発でした。一例をあげますと、この年の夏季合宿は大変なものでした。1年生11名だけなのでアーチェリーだけではスクールバスも頼めず、ちょうど合宿所が同じ県という事で他のクラブのバスに乗せてもらえました。しかし、同県と言っても途中から電車、路線バスと乗り替えて、若い部員と私は自分の弓と着替え、タタミ以外の重い道具をもってやっと宿にたどり着くのでした。また、今でこそ、90Mをうてる射場と25Mの室内練習場を持っているのですが、当時は18Mしかうてない倉庫で練習をしていました。ある日、やっと許可があり、練習場と続きの倉庫を整理、改良することで現在の練習場となった訳です。もちろん、部員の手で……。

しかし、この時の部員はいろいろな苦勞をただけあり、翌年には京都での全国大会、翌々年には沖縄の国体に個人ではありますが出場できました。一方、私にとっても大学生と高校生の指導のギャップに悩む一年でした。

創部4年目の昭和62年、当時我校の部活動の数が少なかったことなどのいろいろな理由もありましたが、地道な活動が認められ、韓国遠征という白羽の矢が我部に当てられました。これは我校が姉妹校に近い提携をしていた韓国の高校との交流の一つでした。このソウル体育学校、慶北高校の遠征は私にとっても部員達にとっても貴重な経験となり、1・2年中心の我部にとっても大きな力を与えてくれました。それが実を結ぶのです。2年後の平成元年には、遠征の時1年生の1人が国体選手として選ばれ、(後に彼が我部初のアー

チェリー推せんで大学進学者となる) 全国大会予選ではないものの初の男子団体優勝をするのです。それも天下の愛知高校を倒して。

その他、これまでの実績としては、平成2年女子団体優勝、平成3年全国選抜大会出場です。

残念ながら、今のところ、団体で全国大会へ出場したことがありません。この記事が全国のみなさんに読まれる時には我部も10年目を迎える訳です。これも何かの区切と思い、OB会の設立を含め部員、顧問ともども脱皮をはかりたいと考えています。部室に掲げている『全国制覇』の字が絵に書いた餅にならないように。

最後に我部のモットーを載せておきます。

- ①約束を守る (他人に迷惑をかけない。)
- ②礼儀の徹底 (あいさつ、言葉づかい)
- ③無断欠席をしない (必ず本人が連絡する。)
- ④しっかり勉強する (授業に集中できない者は練習にも集中できない)
- ⑤身なりを整える (清潔な感じを保つ)



現在の部員 (平成5年1月)

ヨチヨチと歩き始めたアーチェリー部

富山県立魚津工業高等学校

監督 浦田 照行

〈私とアーチェリーとの出会い〉

平成6年の全国高校総体、平成12年の富山国体（県では「2000年国体」と呼んでいる）のアーチェリー競技は、秘境黒部峡谷の玄関口として知られる宇奈月町で開催されるが、私とアーチェリーとの関わりは、その宇奈月へアーチェリー競技を誘致するところから始まった。

昭和62年から3年間、私は社会教育主事（スポーツ担当）として、宇奈月町教育委員会に勤務した。ちょうど前記2大会の富山県開催が内定し、各市町村では種目の誘致合戦が華やかな頃だった。宇奈月町もその例にもれず鋭意検討中だったが、あろうことか、その中心的立場に置かれたのがこの私であった。ここに悲劇は始まった。何しろ、アーチェリーといえばロビンフッドかウィリアムテルしか連想できない程度の者がイニシアティブをとることになったのだから。

誘致種目決定までの経過は省略するが、ともかく紆余曲折はあったもののアーチェリーに的を絞るところまでは順調に進んだ。しかし、その後の作業が困難を極めた。いかんせん、周囲にアーチェリーについて知識のある人物が皆無である。にもかかわらず、町としてはアーチェリー誘致のために積極的に取り組んでいるとの姿勢を示さねばならない時期に来ていたからである。

そこで。

前途に漂う暗雲を振り払いつつ、「アーチェリーの町・宇奈月」をめざす一とのキャッチフレーズのもとに予算を獲得し、広く町民にアーチェリーについて知ってもらうことを主な目的に、年間20回～30回の「アーチェリーの紹介・普及教室」を開催した。

その指導を県アーチェリー協会に依頼したが、その中で、弓には練習用から競技用までいろいろあって、価格もピンからキリまであること、サイト・レスト・スタビライザーなどを必要とすることや、タブからボウリングなど一回や二回聞いてもすぐに忘れてしまいそうな諸々の小物がたくさんあって、弓もその都度組み立てて使用するもので非常に面倒くさいものだということを初めて知った。そして、ごくごく初歩的技術や指導方法なども知ることもできた。

このような経過で、アーチェリーと関わりを持つようになったのだが、まさか学校現場

に戻ってからも、さらに深く関わっていくことになろうとは夢にも思わなかった。

〈創部3年目の本校アーチェリー部〉

◇平成2年。

4月に赴任。県教育委員会体育課から要請があったことと、幸運なことに中学時代に宇奈月町のアーチェリー教室に参加していた生徒が2名いたこともあって、6月には同好会を発足させることが出来た。

しかし、当然のごとく学校には練習場所も弓具ないので、活動はすべて宇奈月町アーチェリーセンターに出向いていた。週2～4回、1日2時間前後の練習だったと記憶している。

内容は、生徒達がただただ射つだけで、私はそれを黙って見ているだけ。生徒達も心得たもので、難しいことは何も聞かなかった。実によくできた生徒達だった。

この年、これもアーチェリー部を発足させたばかりの高岡竜谷高校との予選に勝ち、幸運にも福岡国体に出場することができた。結果は最下位だったが生徒集めには大きなPRとなったようで、その後しばらくして女子4名が加わった。

◇平成3年。

4月に同好会から部に昇格し、幾ばくかの予算もついた。活動条件は相変わらずだったが、6月も過ぎる頃、狭いながらもグラウンドの片隅に50Mの距離を射てる場所が確保され、校内で練習できるようになった。弓具は借り物だったが、時間を確保できたことによるメリットは大きく、特に全国大会を目標にしていた二・三年生には願ってもないことでもあった。

また、特筆すべきは、新入部員が34名もあったことである。前年の国体出場に併せてアーチェリーに対する物珍しさも手伝ったのだろうが、校内では春の珍事として話題になった。

しかし、練習用弓具がなく、トレーニングばかりの毎日が続いた上に、私が夏休み期間中、出張と内地留学のためほとんど学校に顔を出せず、生徒達の面倒を見きれなかったことも影響したのか脱落者が続出し、最終的には10数名が残ったにすぎなかった。

この年、山形県鶴岡市での全国高校選手権大会に団体男女（男子33位、女子35位）、石川国体に女子3名（40位）、京都での全国選抜大会に男女とも出場した。

◇平成4年。

新入生に対する部活動説明会でキャプテンが過去2年間の実績を紹介し、入部を呼びかけた。

「諸君！アーチェリー部へ来たれ。」

ここまではよかったが、最後の一言が悪かった。持参した弓を高く掲げ、

「皆さん、この弓いくらだと思いませんか。30万円です。」

「まずい！」

と思ったが後の祭で、平成4年度の入部者は「ゼロ」。少ないだろうとは思っていたが、まさか「ゼロ」とは予想外のことで、創部3年目にして早くも存続の危機に直面することとなった。

とはいえ、前年ほとんど行射練習ができなかったにも関わらず、活動を続けていた新二年生全員が弓具を買い揃え、意欲的に練習に取り組んでくれたおかげで、3年目にしてようやく部らしい「アーチェリー部」になったように感じられ、私にとっては頗る満足な1年でもあった。

この年、香川県での全国高校選手権大会に団体男子（22位）と個人女子が出場した。

創部から3年が経過した。生徒とともに学びながらの、それこそ、しどろもどろな指導ではあったが、どうやら軌道に乗り始めたかの感がある。

だが、大事なものはこれからだと思っている。幸いにもこの3年間で、いくつかの全国大会を経験したが、それぞれの大会における強豪校のプレイを見るにつけ、今後学ばなければならないことが山ほどあるようである。

万事に未熟な私だが、「継続は力なり」の精神で一步ずつ、着実に歩んで行きたいものと、決意を新たにしているところである。

最後に、本稿を読まれた全ての皆様からのご指導とご教示を切にお願いして、結びとしたい。

アーチェリー部と私

福井県立高志高等学校

教諭 川畑 順一

私が、アーチェリーと出会ったのは、今から5年前のことである。新採用として本校に赴任した私は、1年目は柔道部の顧問をしていた。そんな私をアーチェリーの世界に引きずり込んだのが、吉田五衛先生であった。本校のアーチェリー部は、同好会として1年間を経た後、部に昇格し、現在4年目である。吉田先生は丹南高校でアーチェリー部を創設、全国大会優勝という経歴を持つ御方で、高志高校に赴任されてからすぐに、アーチェリー同好会を作られた。そして、部に昇格するには顧問が二人必要なため、暇そうにしていた私に目をつけたのであった。私へのアプローチは実に巧妙であった。まず、私を射場へ誘い出し、実際に射させてくれるのである。(もちろんワンピースボウで近射だが…)遊園地でしかやったことがなかった私は、喜んで射ちまくり、例の如く左腕に青あざを作って泣いていた。次は、本物?の弓を見せてくれた…というよりは見せつけられた。吉田先生は職員室でおもむろに弓を組み立て始めたのである。キラリと輝くメタリックのアーチェリー。単純な私は、それを見た瞬間「かっこいい!!」と思い、ふと気がつく自分の弓を組み立てて、にんまりしている私がいた。

本校は進学校で、土曜日を除いては毎日課外を行い、部活動をする時間はあまりない。そのような状況でなぜ本校にアーチェリー部ができたのか?その答えは、①アーチェリーは受験勉強と両立しやすい。②知的なスポーツである。③一人で練習できる競技である。④短時間の練習でも、ある程度までは上達する。の4点である。

また、どこの学校でも同じ悩みだろうと思うが、やはり射場の問題がある。本校はJR福井駅から徒歩15分の所にある学校であり、その狭い敷地のどこで練習をするのか?ましてや新設部である。射場など作れるはずがない…。ところが、幸いなことに本校の近く(約2km離れた所)に、福井市練習場が県協会の働きで出来たのである。射場は70mまで射つことが可能で、射場外からは90mも可能である。しかし、問題点も多く存在している。①学校から離れているため移動時間もつたいない。(走って行けばトレーニングになるが、ケースを持って走るのは辛く、自転車で行っている。)②一度に6、7人しか射てない。(本校部員は30名)③二本の川に挟まれているため風が強い(…というより乱気流といった方が適切かもしれない。)④雨宿りの場所がない。⑤市営球場の後ろにあるため、時々ボールが飛んでくる。⑥近くに染色工場があり、風向きによってはとても臭い等々、数え上げればきりが無いが、射場がないのに比べればせいたくな悩みであり、生徒達は本校の他の生徒にほとんどその存在を知られることなく黙々と練習している。ちなみに肝心の用具に関しては、兄貴分に当たる丹南高校からワンピースボウ5本を(永久)借用し、ヤマハから初心者援助として3本いただいた。あとは個人

で買わせたり、本校同窓会で資金提供を受けた。

本校アーチェリー部のモットーは「1に勉強、2にアーチェリー、他はなくてこの2つのみ。」である。そのためかどうかはわからないが、ほとんどの生徒たち（もちろん例外もある）はよく勉強をする。アーチェリーの練習をしない日はあっても、勉強をしない日はない。練習に遅刻してくる理由の大半が、「質問をしていました。」である。

2年前に卒業したある男子生徒との練習中の会話。

「先生！きんのお、はよねてんたんやって。(先生、昨日、早く寝てしまいました。)(くやしそうに)

「何時に寝たんにゃ？(何時に寝たの?)」

「1時やあ。(午前1時です。)」

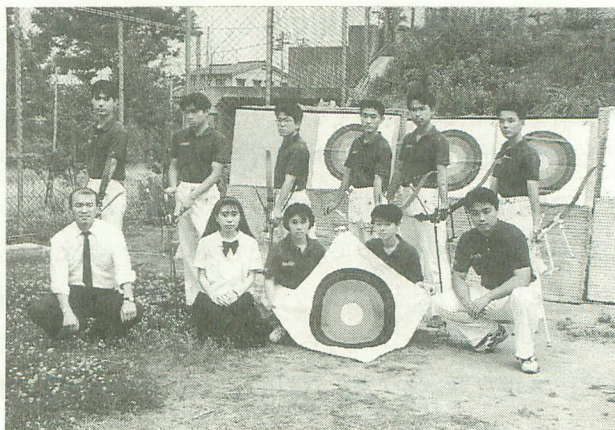
「練習でよわってもたでけ？(練習で疲れたからか。)」

「ほやほや。ほやかってえ、72本も射たせるんにゃもん。(そうそう。だって72本も射たせたから。)」

この男子生徒は、東大文Iにストレートで合格し、今でもアーチェリーを続けている。この他にも京大や東北大・金沢大などの国公立大学にもほとんどの部員が進学し、そのほとんどがアーチェリーを続けている。中でも去年、東京農工大に進学した女の子は関東国立大学の新人大会で優勝した。このように、本校アーチェリー部はアーチェリーの成績は、今一つだが進学率だけは非常に素晴らしい。これは自慢でも負け惜しみでもなく、単なる事実を述べただけである。

今、大学に進学した生徒のほとんどがアーチェリーを続けていると言ったが、その理由は本校アーチェリー部の弓に対する考え方によるものだと思っている。本校の3年生は6月で引退するため、アーチェリーをする実時間が少ない。また、大学へ進学してもアーチェリーを続けるかどうかわからない。よって、出来るだけ早くクリッカーを付け、カーボンの矢を使わせ、試合も数多く出場させる。つまり、少しでも早く弓を引けるようにし、短い高校生活の間にアーチェリーを楽しもう！というのが創設当初からの方針なのである。ところが、その楽しさ故に、短い高校生活にとどまらず、大学生生活にまでアーチェリーが入り込んでいるのである。これは創設当初の予想から大きくはずれたうれしい誤算である。

現在、本校アーチェリー部は今年のIH出場を目標に一生懸命練習に励んでいる。今はIH出場が目標だが、将来は生徒達が世界ジュニア大会出場などともっと大きな目標に向かってがんばってくれることを期待している。



「基本射形の考え方と注意点」

(社)全日本アーチェリー連盟強化部 広瀬 明

	十字射形=正面+側面からの身体の垂直性	呼 吸	
1. スタンス	ストレートスタンス。(両足の爪先を結ぶ線が自分の的の中心を通る。)重心は両足の真中に感じる。足の開き方(肩幅程度)、爪先の開き方に注意が必要。毎回同じにスタンスをする事が大切(スタンスマーカーを使用する事も考慮)	深く大きな呼吸を行ない多くの酸素を体内に取り入れる様にする。	
2. セット	グリップ……親指と人指し指の付け根でピボットポイントを押す。親指は的方向に伸ばし甲が45度になる。 取掛 け……3本の指を掛けるが中指が中心。甲は垂直で曲がらないようにする。小指は軽く内側に曲げ親指の先と触れ合わせる。 顔 向 け……頭を中心線(垂直線)を軸にして的側に向ける。(顎が左肩に近づき過ぎない事)		
3. セットアップ	弓を持ち上げる前にストリングを少し引き(10cm程度)グリップ、取掛けの確認をする。ストリングを少し引いた状態のまま、身体を中心軸を動かさない様に両手を持ち上げ、両肩のラインがスタンスラインと平行になる位置まで上体を回して動きを止め、全身の位置関係を確認する。この時サイトは的の上部(白または黒)に付け、引き手の肘は目の高さで矢の先端と一直線にする押手の肩、肘は的方向に押し切った位置でセットする。(弛みをつくってはならない。)いわゆるサル腕の場合は、この時に肘を時計回りに絞り固定させる事が必要である。(フォロースルーまで、絞りを持続させる事。)	①弓を持ち上げながら息を吸い込み、両手をセットする時点で息を吐き、重心を下げてやる。	②弓を持ち上げながら息を吸い込む。
4. ドローイング	押 手……肩が上がらないように前方下に押し続けてゆく。(手首で押ししてはならない) 引き手……矢の延長線上に肘を引いてくる。手の甲の向きが変わらない様に又指先に力が加わらない様に注意。(小指側を少し内側に回す様な意識が必要。)	ドローイングに合わせて息を吸う(深呼吸の半分ぐらいでアンカーの前までに)	ドローイングに合わせて1/3~1/2の量を吐いてゆきアンカーで止める。
5. アンカーリング	顔はセットアップから動かさない様に注意する。顎の骨の下に引き手をしっかりと入れ、顎の先端とストリングと人指し指との交点を常に一定の位置に固定する。(顎の中央にアンカーをセットする。)ストリングと鼻は微かに触れ合う程度	アンカーからリリース終了までは呼吸を止めておく。但し力を入れて息をつめるのではな	

6. エイミング (伸び合い)	<p>で無理に付ける必要は無い。アンカーで引きを止めずにそのまま最後まで引き続ける。押手の肩はドローイング時の力の入れ方を引き続き保持する。弦サイトを合わせる。(ストリングがハンドル上部左端に合う様に顔向けを調節する。)この時上下の歯が軽く噛み合う程度の状態で口の開きをコントロールし、奥歯を強く噛締める必要はない。</p>	<p>く自然に呼吸を止めた状態。従って鼻からは若干の息がもれているのが良く決して吸ってはならない。</p>
7. リリース	<p>右目で的に焦点を合わせ、視野の中でサイトピンをゴールドに合わせる。両肩を動かさない(身体を回転させない)様にして、引き手の肘を締め背中の方へ回す様に伸びクリッカーを切る。(矢筋に沿って、時間を掛けない。)基本的には両目を開けておろが、左目の像が強すぎる場合はつぶると良い。</p> <p>押手の肩の力と引き手の力が抜けない様に注意しながら、取り掛けの指先の力のみを瞬間に抜く。(初めの内はパーを出す又は親指と小指をパッと開くように指先を伸ばす方がやりやすいが、徐々に切り替えてゆく事が必要。)引き手の肘は自然に背中側に回転し、人指し指は首筋に触れたまま、甲の向きも変わらない。身体を中心線、両肩の線、押し手、顔向けは決して動かさない。</p>	
8. フォロースルー	<p>リリース終了時の形を2~3秒保持してから終わる。(押し、引き手の力を保持)正しいリリースが出来なかった場合でもフォロースルーは正しくとって射を終わる様に努力する。</p>	

アーチェリー一部練習計画表（1）

時 期	達成目標	強化内容	練 習 内 容 と 留 意 点		備 考
			技 術 面	体 力 面	
第 1 学年	技術の正確性は体力に左右される。		正しい技術を正確に行う事	数値で管理し目的意識を持たせる	
4 月上 中 下 5 月上 中 下 6 月上 中 下 7 月上 中 下	練習弓が正しく引ける（20#）	↓ 上半身 3 下半身 7 ↓ 上半身 3 下半身 5 射形 2 ↓ 上半身 3 下半身 2 射形 5 ↓	基本射形の理解、シャドーとゴム引きによって形をマスターし背中から引くイメージを付けてゆく。 トレーニングに合わせ徐々に射形に重点。特にドローイング時に右肩甲骨を寄せ背中で引く事をイメージさせリリースに結び付ける。	基礎体力UP ランニング中心に心肺機能と脚力の向上を主眼とする 腹筋、背筋、腕立て、スクワット等 基礎トレに三角筋、二頭筋、三頭筋の強化を加えてゆく。 パーベル、ダンベル等を使用して上半身全体を強化してゆく。 （背面を特に意識）	心電図の結果が出るまでは軽いトレーニング。結果が出た後にランニングを中心とする。 ストレッチバンドを背中を通して引き手の肘にかけて形を作る。ゴム引きはゴムを握って引かせる。 練習中に指導者が1本ずつ「背中で引けたか」を聞き常に意識させる。
8 月上 中 下 9 月上 中 下 10 月上 中 下 11 月上 中 下	自分の弓が正しく引ける（10%ダウン）	↓ 上半身 3 下半身 2 射形 5 ↓	練習弓が引きこねせたら自分の弓で近射に入る。5mから距離を射たせ330点以上出たら5mづつ伸ばしてゆく。 20m=325点以上で30mへ 30m=300点以上で50mへ フォロースルーの大切さを教えしっかりとする事を体に覚えさせ、エイミングで一定の長さを延びてリリース出来る様になればクリッカーを使わせる。	腹筋、背筋、腕立て、スクワットジャンプを各50回以上。 倒立歩行が出来る。 懸垂(正面、背面共)10回以上 自分の実質ポンドと同じ負荷での両手カール。 実質ポンド*2の負荷でベンチ サークットトレーニング等を取り入れ筋持久力の向上。	ストリングをただ離すのではなくフォロースルーに向かってシュートさせる。クリッカーを切る為の伸びの方向性をイメージさせる。自分の注意点をメモさせ1本毎に確認させる。 50mで220点以下の者は再度30mからやらせる。
12 月上 中 下 1 月上 中 下 2 月上 中 下 3 月上 中 下	自分の弓が正しく引ける（5%ダウン）	↓ 上半身 3 下半身 3 射形 4 ↓	近射を中心に射形を1からチェックさせ、丁寧に射たせる。 ゴールドへの矢の集中をイメージの中に植え付ける為に15mから1週に1mづつ距離を延ばす。 寒くなるとどうしても取り掛けに力が入り過ぎるのでリラックスと保温に注意する。	1日おきにシューティング主体とトレーニング主体をはっきりと分け、メリハリのある練習とする。 シーズン中は金曜日が主として移動日となるので、この時期から休みとする。 器具のないところはストレッチバンドで代用すると良い。	来シーズンの目標の明確化によるモチベーションの向上

アーチェリー部練習計画表(2)

時 期	達成目標	強化内容	練 習 内 容 と 留 意 点		備 考
			技 術 面	体 力 面	
第2学年	全日本選手権 出場	オールラウ ンドな強化	自分のシューティングの理解と確 立	シングルラウンドが負担に感じな いレベルの体力と気力の養成	
4月上 中 下 5月上 中 下 6月上 中 下 7月上 中 下	連休頃から長 距離を練習 70 } +50mで 60 } 600点目標 マッチプレー でのメンタル コントロール	週2回程度長距離 主体の射込み マッチプレーでの プレッシャーへの 対処	長距離に於ける肩の位置が短距離 と同様である事意識 距離毎の違和感をなくし、各距離毎 のグルーピングの大きさをイメ ージとして持たせる。 架空の敵を想定しマッチプレーに 於けるメンタルリハーサル	練習後弓を使ったトレーニング(段 引き、肩入れ)を必ず行う。 全身運動能力の向上(ランニングと ウェイトトレーニング)は年間を通 して行ってゆく。 自分の弓を1分間はホル ディング出来るようにする。	距離練習の前後に必ず近射 を行い正しいフォームのイ メージを確認させる。 体調や身体のリズムによる 得点変動をチェック
8月上 中 下 9月上 中 下 10月上 中 下 11月上 中 下	インターハイ 国 体 全日本	シングルラ ウンドの強 化	各距離の違和感を無くすためにグ ランドラウンドで点数付け (全ての距離を同じ感覚で射てるよ うに) 自分のシューティングの確立 (イメージをまず確立させる。)	雨や風等の悪条件のもとで も自分の射のリズムを守れ るだけの体力レベル	カーボンアローの使用とフ ルボンドへの移行時期？
12月上 中 下 1月上 中 下 2月上 中 下 3月上 中 下	全国選抜大会		1学年と同じ内容 (密度は当然濃くなる。) シューティングの自動化が更に精 度良く出来るように、距離と近射を 組合わせて行う。	↓	

アーチェリー一部練習計画表(3)

時 期	達成目標	強化内容	練習内容と留意点		備 考
			技 術 面	体 力 面	
第3学年	全日本選手権 出場 2500点	技術と体力のバ ランス+メンタル	基本に裏付けられた安定したフォー ムの確立	4日間の試合(海外を含む)に耐え うる体力と気力の養成	海外試合に対する準備(言 葉と食事)
4月上 中 下 5月上 中 下 6月上 中 下 7月上 中 下	Jr代表予選 Jr代表予選	全体をバラ ンス良く強 化すること が大切 (欠けた部分 を補ってゆ く)	本人の自覚に基づいて、より高いレ ベルへ意識を向上させ、細部にわた るフォームのチェックと矯正 色々な場面を想定し、その中で常に 自分のベストを発揮出来る為の フォームづくりとメンタル強化(シ ングル、ダブル、グラウンド、オリンピッ ク、インドア等)	練習(実射、トレーニング)を通じて 身につけるメンタルタフネス。	
8月上 中 下 9月上 中 下 10月上 中 下 11月上 中 下	インターハイ (世界Jr大会) 国 体 全日本				
12月上 中 下 1月上 中 下 2月上 中 下 3月上 中 下					

指定都道府県番号表

指定都道府県番号	都道府県名	指定都道府県番号	都道府県名	指定都道府県番号	都道府県名
1	北海道	17	長野	33	岡山
2	青森	18	富山	34	広島
3	岩手	19	石川	35	山口
4	宮城	20	福井	36	香川
5	秋田	21	静岡	37	徳島
6	山形	22	愛知	38	愛媛
7	福島	23	三重	39	高知
8	茨城	24	岐阜	40	福岡
9	栃木	25	滋賀	41	佐賀
10	群馬	26	京都	42	長崎
11	埼玉	27	大阪	43	熊本
12	千葉	28	兵庫	44	大分
13	東京	29	奈良	45	宮崎
14	神奈川	30	和歌山	46	鹿児島
15	山梨	31	鳥取	47	沖縄
16	新潟	32	島根		

★個人登録番号の付記について

- 1) 指定都道府県番号はHの前に 例：東京都の場合 13 H-
- 2) 指定学校番号はHに続いて 例：東京都の玉川学園高校の場合 13H-06
- 3) 個人登録番号を-の後に男子は1001・女子は5001より各学校で付記
 例：東京都の玉川学園高校の場合 13H-06-1001 (男子の場合)
 13H-06-5001 (女子の場合)

選手権大会 栄光の歩み

(第1～19回：1日制、第20回～：男女別2日制で実施)

回数	男・女	団体の部	個人の部
第1回大会		(68'8.10.大阪府・東大阪グランド)	
男子		浜松興誠高(静岡)1639.	稲川篤郎(浜松興誠高)577.
女子		同志社高(京都)1419.	布浦裕子(同志社高)503.
第2回大会		(69'8.10.静岡県・県営草薙運動場)	
男子		岸和田産業高(大阪)1689.	下向辰法(岸和田産高)573.
女子		同志社高(京都)1470.	布浦裕子(同志社高)529.
第3回大会		(70'8.9.東京都・駒沢第一球技場)	
男子		岸和田産業高(大阪)1606.	伊藤寿彦(岸和田産高)601.
女子		同志社高(京都)1505.	熊谷登美(同志社高)527.
第4回大会		(71'8.1.京都府・府立大グランド)	
男子		浜松工業高(静岡)1622.	亀井孝(同志社高)600.
女子		甲南女子高(兵庫)1493.	井上典子(同志社高)534.
第5回大会		(72'8.4.神奈川県・三ツ沢球技場)	
男子		横浜高(神奈川)1702.	角井和夫(広島工業高)583.
女子		浜松北高(静岡)1601.	辻紀子(甲南女子高)552.
第6回大会		(73'8.5.東京都・駒沢第一球技場)	
男子		愛知高(愛知)1764.	鈴木優(静岡三ヶ日高)621.
女子		同志社女子高(京都)1553.	辻紀子(甲南女子高)558.
第7回大会		(74'8.3.滋賀県・県営彦根総合運動場)	
男子		同志社高(京都)1707.	河内敏雄(同志社高)600.
女子		同志社女子高(京都)1644.	後藤有理子(同志社女高)573.
第8回大会		(75'8.3.愛知県・愛知学院大グランド)	
男子		大阪工業大高(大阪)1753.	梅内秀和(八戸工大第二)646.
女子		同志社高(京都)1586.	小里頼子(札幌啓成高)551.
第9回大会		(76'8.1.北海道・札幌真駒内アイスアリーナ)	
男子		三本木農業高(青森)1810.	市川松治(三本木農高)633.
女子		富士見高(静岡)1686.	佐野敦子(富士見高)592.
第10回大会		(77'7.31.宮城県・秋保森林スポーツ公園)	
男子		慶応義塾高(神奈川)1817.	神野浩(慶応義塾高)627.
女子		浜松商業高(静岡)1724.	松永弘子(富士見高)607.
第11回大会		(78'7.27.青森県・十和田市陸上競技場)	
男子		愛知高(愛知)1785.	山本博(横浜高)639.
女子		三本木農業高(青森)1641.	山内京子(浜松商業高)570.
第12回大会		(79'7.29.広島県・県営総合グランド)	
男子		浜松工業高(静岡)1836.	山本博(横浜高)630.
女子		山陽女子高(広島)1641.	大道理枝(山陽女子高)582.
第13回大会		(80'8.3.滋賀県・秦荘町民スポーツセンター)	
男子		横浜高(神奈川)1925.	山本博(横浜高)670.
女子		千葉英和高(千葉)1739.	大道理枝(山陽女子高)618.
第14回大会		(81'8.2.東京都・駒沢第二球技場)	
男子		名古屋電気高(愛知)1888.	岐部恭史(大阪工大高)640.
女子		大津商業高(滋賀)1794.	名倉裕子(浜松工業高)621.
第15回大会		(82'8.1.群馬県・川場中学校グランド)	
男子		丹南高(福井)1817.	薄井雅美(馬頭高)625.
女子		富士見高(静岡)1682.	平田さゆみ(札幌月寒高)598.

第16回大会 (83' 8.7.奈良県・三宅健民運動場) ⊕雷雨の為、団体・個人共に63射迄の記録		
男子	馬頭高 (栃木) 1650.	池田辰弥 (慶応義塾高) 571.
女子	大津商業高 (滋賀) 1587.	岩波ひろみ (大津商業高) 543.
第17回大会 (84' 8.5.鳥取県・東郷湖羽合臨海公園スポーツ広場)		
男子	米子北高 (鳥取) 1904.	松田武文 (米子北高) 643.
女子	札幌啓北商業高 (北海道) 1816.	山本和美 (札幌啓北商高) 620.
第18回大会 (85' 8.11.山梨県・敷島総合公園運動場)		
男子	米子北高 (鳥取) 1889.	室伏優一郎 (横浜高) 650.
女子	大津商業高 (滋賀) 1789.	児玉晶子 (米子北高) 648.
第19回大会 (86' 7.27.沖縄県・宜野湾市海浜公園多目的広場)		
男子	横浜高 (神奈川) 1787.	蓮田秋二 (東京学園高) 629.
女子	札幌啓北商業高 (北海道) 1753.	中込恵子 (甲府第一高) 612.
第20回大会 (87' 7.25~26.京都府・日吉胡麻総合運動広場)		
男子	三本木農業高 (青森) 1876.	鎌田芳彰 (幕別高) 643.
女子	折尾高 (福岡) 1775.	大城春野 (宜野湾高) 611.
第21回大会 (88' 7.26~27.北海道・旭川市)		
男子	北大津高 (滋賀) 1883.	吉田賢 (甲府第一高) 657.
女子	折尾高 (福岡) 1881.	岩山美保 (折尾高) 635.
第22回大会 (89' 7.26.~27.福岡県・北九州市)		
男子	柏陵高 (福岡) 1685.	山本敦 (永谷高) 603.
女子	旭川北高 (北海道) 1802.	鈴木知子 (桜ヶ丘高) 634.
第23回大会 (90' 7.27.~28.石川県・柳田村)		
男子	柏陵高 (福岡) 1917.	宮永雅史 (柏陵高) 657.
女子	折尾高 (福岡) 1796.	森本淳子 (同志社高) 626.
第24回大会 (91' 7.27.~28.山形県・鶴岡市)		
男子	同志社高 (京都) 1813.	藤原悟 (広島工業高) 630.
女子	折尾高 (福岡) 1681.	岡野善恵 (甲南女子高) 578.
第25回大会 (92' 7.26.~28.香川県・財田・仲南町)		
男子	横浜高校 (神奈川) 1880.	大村正純 (横浜高校) 650.
女子	横浜学園 (神奈川) 1828.	川上祐佳里 (柏陵) 639.
平成5年度 全国高等学校総合体育大会 第26回大会 (93' 8.1 ~ . . . 県 .)		
男子		
女子		

選手権大会記録

[団体の部]

《男子》横 浜 高 (神奈川) 1925	山本 博 670 (323.347)	・ 第13回大会
	白井 肇 628 (294.334)	
	足立 朋美 627 (299.328)	
《女子》折 尾 高 (福岡) 1881	岩山 美保 635 (299.336)	・ 第21回大会
	坂田美穂子 624 (291.333)	
	岡部 由布 622 (290.332)	

[個人の部]

《男子》				
ハーフ	・ R	山本 博	670 (323.347)	神奈川・横浜高・第13回大会
50	M	山本 博	323	神奈川・横浜高・第13回大会
30	M	山本 博	347	神奈川・横浜高・第13回大会
《女子》				
ハーフ	・ R	児玉 晶子	648 (310.338)	鳥取・米子北高・第18回大会
50	M	児玉 晶子	310	鳥取・米子北高・第18回大会
30	M	鈴木 知子	341	愛知・桜ヶ丘高・第22回大会

選抜大会 栄光の歩み

【男子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	90m 70m 50m 30m	期 日	開 催 地
1	河合徳之	浜松工	1199	246. 309. 306. 338.	'83. 3. 25-27	愛知・森林公園
2	角田信一	馬頭	1154	259. 277. 294. 324.	'84. 3. 25-27	静岡・富士市
3	松田武文	米子北	1131	208. 288. 301. 334.	'85. 3. 25-27	滋賀・秦荘町
4	田中喜美男	横浜	1198	265. 300. 294. 339.	'86. 3. 25-27	福井・芦原町
5	和田和則	馬頭	1174	234. 269. 307. 317.	'87. 3. 25-27	東京・駒沢公園
6	荒金利剛	米子北	1164	237. 282. 318. 327.	'88. 3. 25-27	大阪・久米田高
7	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3. 25-27	神奈川・横浜高
8	赤井雅宏	北大津	1200	252. 307. 306. 335.	'90. 3. 25-27	兵庫・神戸市
9	田中勝美	横浜	1214	277. 321. 291. 322.	'91. 3. 26-28	愛知・愛学院大
10	厚海善栄	田村	1216	259. 316. 307. 334	'92. 3. 25-27	京都・山城総合
11	木村正純	横浜	1232	249. 312. 326. 345	'93. 3. 25-27	静岡・草薙

【大会記録】

TOTAL	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3. 26-28	神奈川・横浜高
90m	田中勝美	横浜	277	第9回選抜大会	'91. 3. 26-28	愛知・愛学院大
70m	田中勝美	横浜	321	第9回選抜大会	'91. 3. 26-28	愛知・愛学院大
50m	木村正純	横浜	326	第11回選抜大会	'93. 3. 25-27	静岡・草薙
30m	木村正純	横浜	345	第11回選抜大会	'93. 3. 26-27	静岡・草薙

【女子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	70m 60m 50m 30m	期 日	開 催 地
1	上鹿渡由美	北海道清水	1183	285. 303. 270. 325.	'83. 3. 25-27	愛知・森林公園
2	田中志律	千葉英和	1124	257. 268. 274. 325.	'84. 3. 25-27	静岡・富士市
3	藤本正美	大津商業	1195	265. 299. 296. 335.	'85. 3. 25-27	滋賀・秦荘町
4	大城春野	宜野湾	1153	276. 286. 272. 319.	'86. 3. 25-27	福井・芦原町
5	松宮真由美	丹南	1207	283. 299. 306. 319.	'87. 3. 25-27	東京・駒沢公園
6	近藤真弓	信愛学園	1216	287. 312. 292. 325.	'88. 3. 25-27	大阪・久米田高
7	小山美代子	菟道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3. 25-27	神奈川・横浜高
8	高木祐子	富士見	1177	263. 289. 305. 320.	'90. 3. 25-27	兵庫・神戸市
9	谷口和子	折尾	1214	288. 316. 280. 330.	'91. 3. 26-28	愛知・愛学院大
10	大内愛	山陽女子	1215	294. 304. 293 324	'92. 3. 25-27	京都・山城総合
11	山岡麗子	横浜学園	1235	293. 313. 295 334	'93. 3. 25-27	静岡・草薙

【大会記録】

TOTAL	小山美代子	菟道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3. 26-28	神奈川・横浜高
70m	長見みどり	山陽女子	296	第7回選抜大会	'89. 3. 26-28	神奈川・横浜高
60m	池田敦美	天真学園	316	第7回選抜大会	'89. 3. 26-28	神奈川・横浜高
50m	松宮真由美	丹南	306	第5回選抜大会	'87. 3. 26-28	東京・駒沢公園
30m	後藤和美	大宮開成	339	第11回選抜大会	'89. 3. 26-27	静岡・草薙

日本高校記録 (FITA ROUND)

平成5年1月現在
全国高体連アーチェリー専門部

(男子)

種別	選手名	学校名・府県名	記録	大会名	樹立年月日	会場地名
シングル	大橋 亨	東京工業高・東京	1 2 8 9 (296 323 320 350)	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
90M	三浦 一己	野津田高・東京	2 9 9	91年東京新聞杯大会	91.6.2	東京・世田谷区
70M	大橋 亨	東京工業高・東京	3 2 3	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
50M	藤原 悟	広島工業高・広島	3 3 0	91年中国地区選手権	91.9.22	広島・千代田町
30M	大橋 亨	東京工業高・東京	3 5 0	89年東京都秋季大会	85.10.8	東京・世田谷区
ハーフ	山本 博	横浜高・神奈川	6 7 0 (323 347)	第13回全国高校選手権	80.8.3	滋賀・秦荘町
50M	鎌田 芳彰	幕別高・北海道	3 2 5	第41回「かいじ」国体	86.10.14	山梨・敷島町
30M	田島 光浩	愛知高・愛知	3 5 0	第41回国体地区予選	86.8.30	岐阜・関市
ハーフ 団体	光田 健 西川 清一 宮 永雅史	柏 陵・福岡	1 9 5 5 663 (321.342) 646 (302.344) 646 (311.335)	90年福岡県高校総体	90.6.3	福岡・福岡市
ダブル (参考)	松田 武文	米子北高・鳥取	2 4 5 0 1226 1224	第27回全日本選手権	85.11.9~10	山梨・敷島町

(女子)

種別	選手名	学校名・府県名	記録	大会名	樹立年月日	会場地名
シングル	児玉 晶子	米子北高・鳥取	1 2 7 5 (305 323 308 339)	第27回全日本選手権	85.11.9	山梨・敷島町
70M	谷岡 和子	甲南女子高・兵庫	3 1 7	全日本選手権県予選	91.4.7	兵庫・しあわせの村
60M	西又 良美	柳田農業高・石川	3 2 6	91年県月例競技会	91.6.23	石川・金沢市
50M	村上 千夏	折尾高・福岡	3 1 9	91年全九州選手権	91.9.1	福岡・小国町
30M	井上鹿代子	富士見高・静岡	3 4 8	89年地区大会	89.6.11	静岡・田方郡
ハーフ	井上鹿代子	富士見高・静岡	6 5 3 (316 337)	89年静岡県高校総体	89.6.4	静岡・天竜市
50M	宮岸かおり	札幌啓北高・北海道	3 2 0	第44回国体地区予選	89.8.4	北海道・旭川市
30M	岩波ひろみ	大津商高・滋賀	3 4 3	第38回国体地区予選	83.8.21	奈良・奈良市
ハーフ 団体	岩山 美保 岡部 由布 羽広 智美	折尾高・福岡	1 8 9 9 645 (306.339) 629 (299.330) 625 (285.340)	88年福岡県高校総体	88.6.5	福岡・福岡市
ダブル (参考)	児玉 晶子	米子北高・鳥取	2 5 3 7 (1275 1262)	第27回全日本選手権	85.11.9~10	山梨・敷島町

F I T A 世界記録・日本記録

1993年1月現在

男子 総合	1352 V・エシェイエフ (ソ連) 1990. ソ連陸海軍選手権 タシュケント	1333 山本 博 (大宮開成高校教諭) 308-338-336-351 1991. 9/16 秋季関東地区 アーチェリー大会
90m	330 V・エシェイエフ (ソ連) 1990	315 松下 和幹 (三菱電機鎌倉) 1987. 5/10 ナ・チーム記録会
70m	344 山本 博 (大宮開成高校教諭) 1990. 5/13 第23回全日本社会人選手権	344 山本 博 (大宮開成高校教諭) 1990. 5/13 第23回全日本社会人選手権
50m	345 R・マッキニー (アメリカ) 1982. 5/23 スポーツフェスティバル	342 山本 博 (大宮開成高校教諭) 1991. 9/23 中国地区アーチェリー大会
30m	358 アントニオ・バスケス (スペイン) 1992.	357 松下 和幹 (三菱電機鎌倉) 1986. 7/2 天津国際競技大会
女子 総合	1375 チョー・ユンジョン (韓国) 1992. バルセロナ・オリンピック	1318 児玉 晶子 (神奈川県) 321-332-325-340 1986. 11/3 第28回全日本選手権大会
70m	338 チョー・ユンジョン (韓国) 1992. バルセロナ・オリンピック	326 中川さつき (日本体育大学) 1989. 8/25 関東学生アーチェリー 個人選手権大会本選
60m	347 キム・スーニョン (韓国) 1989. 7/5 第35回世界大会	334 児玉 晶子 (神奈川県) 1986. 9/29 第10回ソウル・アジア大会
50m	338 チョー・ユンジョン (韓国) 1992. バルセロナ・オリンピック	334 中込 恵子 (日本体育大学) 1990. 8/5 第106回全米選手権大会
30m	357 J・エデンス (イギリス) 1990. ヨーロッパ選手権・バルセロナ	349 伊藤邦栄 (関西大学) 1984. 10/6 第23回全日本学生 個人選手権大会

* () 内の所属は記録樹立時のものです。(提供・F I T A、(財)全日本アーチェリー連盟)

記録収集について

競技委員会

記録収集の意義につきましては組織の歴史であり、同時に将来的な発展の最も大きな源動力となるべきものであります。競技力の向上、組織の活性化、競技の普及拡大、すべてこの記録無しには考えられません。つきましては記録送付及び記入要領は下記の要領でお願いします。

- 【1】送付記録は原則としてコンピュータデータの形式とする。
- 【2】種別、種目、項目は従来通りとする。
- 【3】各都道府県で【2】の2種別、6種目について競技者のランキングを作成し、そのデータを送付する。
- 【4】送付用フロッピーディスクは競技委員会記録部より配布するので、その中に入力する。
- 【5】記録送付競技会
 - (1) 都道府県高等学校体育連盟主催の競技会
 - (2) 全ア連主催あるいは各県公認競技会・予選会

データ入力上の注意

- 【1】各項目のセル幅について
 - (1) セルを移動すると画面左上にセル番地と共に数字が出ますが、これは設定されたセル幅です。出ないのは標準のセル幅（半角10）です。
 - (2) セル幅の変更はしないで下さい。
- 【2】各項目への入力について
 - (1) 順位
各県単位の順位はつけても良いが、送付用は消去して下さい。
 - (2) 氏名
全角左詰めとします。（全角6文字）
例 氏2文字 名2文字
氏2文字 名1文字
氏1文字 名2文字
氏3文字 名3文字
氏3文字 名1文字
 - (3) 所属県名
全角左詰め文字入力とします。（全角3文字）

都・府・県の文字はいりません。

(4) 登録番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角 9 文字）

例 25H015005

42H021001

(5) 学校番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角 5 文字）

例 40H01

11H04

(6) 学校名

全角左詰めとします。ハーフ・シングル（半角10）、団体（半角11）5文字内で入力します。学校名の後に高校・高の文字は5文字以内ならば、つけて下さい。

(7) 学年

半角、数値入力とします。

(8) 合計

各種目の距離別小計は数値入力とします。

種目の合計欄には計算式が書き込まれている筈ですから、各距離得点へ入力して下さい。

団体は必ずチームの1位・2位・3位の順に左から入力して下さい。

（団体順位のソートは団体合計・1位得点・2位得点の順に実行します）

(9) 日時

日時は半角数字（文字）入力します。年は不要です。

例 08/03

11/03

10/10

(10) 競技会名

全角 5 文字位で入力して下さい。

例 長崎県民体育大会……長崎県体又は県体

(11) 会場名

全角入力とします。（全角 6 文字）

セル幅は全角 6 文字に設定しています。これを越えても入力はできますが、長過ぎると製本時に切れることがあります。

開催された県名／会場地名を入力します。（／を間に入れて下さい）

例 埼玉／上尾橋

大分／狭間町

グラウンド等はGで省略して下さい。

例 田布施高校グラウンド……田布施高校G

【3】得点記録集計のディスクについて

- (1) LOTUS-123 R2.1JまたはR2.2Jで作成されたデータとする。
- (2) ディスクは原則として3.5” (2DD.HD)を使用するが、5” (2HD)でも良い。
- (3) ディスクは必ずコピーディスクにラベルをつけ、県名・入力責任者名・住所を記入して送付する。

【4】送付先及び締切期日

送付先 ☎856 長崎県大村市森園町1079-3

長崎県立大村工業高等学校

機械科 大塚 敬輔 宛

TEL 0957 52-3772・3773 内線45

FAX 0957 52-3773

締切期日 当該年度の12月20日 (必着)

遅れると製本期日の都合上記載されない場合があります。

問合わせ 質問・問合わせは上記住所・電話番号へお願いします。

高校公認記録規程

- 第1条 全日本アーチェリー連盟（以下「全ア連」という。）規約第11章第136～143条にもとづき、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「本専門部」という。）規約第8章第11条第3項により競技記録公認規定をこれにより定める。
- 第2条 本専門部の加盟・登録者が、この規定の定めるところにより、その加盟学校および登録構成員が、以下にかかげる諸条項のもとに行われた競技会において作られた記録に限り公認申請することができる。
- 第3条 日本高校記録は、全ア連競技規則第137条の外、次の条件を満たすこと。
- 1) 当該年の4月1日現在18歳未満の高校生の記録であること。ただし、定時制生徒は19歳未満とする。
 - 2) (1)全ア連が公認した競技会における記録。
(2)各都道府県単位または地域高校競技会の記録。
ただし、印刷したプログラムがあり、競技委員長・審判長・射場長は公認審判員であること。
 - (3)ハーフラウンド及びハーフラウンド団体の記録は、ハーフラウンドの競技会の記録であること。
- 第4条 前条にかかげる競技会には、次に定める諸条件が具備されていなければならない。
- 1) 各都道府県高体連に学校加盟し、本専門部に加盟・登録していること。
 - 2) 団体の記録は同一学校、同一課程の編成であること。
 - 3) インター・ハイ本大会に準じた、相互得点記録方法であること。
- 第5条 個人の距離別の記録公認については、第3条に規定された競技会において樹立されたものを申請することができる。
- 第6条 前条に定める競技会の記録公認申請は、競技の日より原則として1カ月以内に主催または主管団体長が前条の確認をなし、全ア連所定の記録承認申請書（本専門部様式-6）に必要事項を記載し、全ア連事務局に提出するものとする。
- 第7条 全ア連理事会で審査の結果、新記録として承認されたときは、その旨を本専門部においても発表し、高等学校記録証を交付する。
- 第8条 毎年12月10日付をもって、各都道府県高体連ア専門部または各都道府県ア協会は

第3条に定めた競技会に於ける当該都道府県の高等学校最高記録を保管し、その写しを毎年12月20日までに本専門部事務局まで送付しなければならない。

第9条 本規定は、本専門部委員会において改廃する。

第10条 本規定は昭和57年5月9日より施行する。

昭和60年4月1日一部改正

昭和63年2月11日一部改正

申請書送付先

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内 全日本アーチェリー連盟 宛

平成 年 月 日

全日本アーチェリー連盟

会 長 殿

主 催 者 名

主 管 団 体 名

会 長 名

印

新記録の樹立承認申請書の送付について (申 請)

標記のことについて、下記の通り新しい記録が樹立されましたので、
ここに関係書類を添えて申請いたします。

なお、関係書類の到着のうへは、書類内容の点検をいただくとともに
念のため受領確認書を送付くださるようお願いいたします。

記

1. 内容記録：記録申請
2. 送付書類：ア) 記録承認申請書…………… 1 部
イ) スコアシート (写) …… 1 部
ウ) 競技会プログラム…………… 1 部
エ) 競技会成績表…………… 1 部

以 上

受 領 確 認	全 日 ア 連	受付月日： 月 日
		確認者： 氏 名： 印

(上記記入のうへ、複写書類を返送下さい)

記録承認申請書

下記の通り新記録が樹立されましたので、ここに承認申請をいたします。

申請内容	日本記録	日本高校記録	日本国際記録
競技会名	第 回		
期 日	平成 年 月 日～ 月 日、(日間)		
会 場			
区分・種別	団体	個人	男子 女子
種目・距離	ハーフ・R	シングル・R	ダブル・R グランド・R
	個人TOTAL	個人距離	90. 70. 60. 50. 30.m
競技者名	(学校・所属名)	①氏名： 登録番号 H -	
		②氏名： 登録番号 H -	
		③氏名： 登録番号 H -	
記録内容	団体記録	合計： _____点	
		① _____点 (90・70m : _____点・50m : _____点・30m : _____点)	
		② _____点 (90・70m : _____点・50m : _____点・30m : _____点)	
	③ _____点 (90・70m : _____点・50m : _____点・30m : _____点)		
個人記録	_____点 (_____, _____, _____点)		
距離記録	m : _____点 (_____点・ _____点)		
	m : _____点 (_____点・ _____点)		
競技会責任者	競技委員長または審判長の署名・捺印 印		
備 考	<p>1. 申請書は、新記録が樹立された種目毎に1枚あて提出すること。</p> <p>2. 添付種類は、①スコアシート一の写し(コピー可)。 ②競技会プログラム。 ③競技会成績一覧表。 を提出すること。</p> <p>3. 未登録の場合、記録樹立後の競技者登録および承認申請書の提出は、いかなる理由があっても認められない。</p>		

大会開催地・開催順(予定)

和 暦	西暦	I H ・ 選 手 権	選 抜 大 会	国 体
平成5年	1993	栃木県・馬頭町	滋賀県・	香川県・二町開催
平成6年	1994	富山県・宇奈月町		愛知県・岡崎市
平成7年	1995	広島県・		福島県・三春町
平成8年	1996	山梨県・		広島県・
平成9年	1997	京都府(予)		大阪府・
平成10年	1998	香 川(予)		神奈川県
平成11年	1999	岩 手(予)		熊本県
平成12年	2000	岐 阜(予)		富山県
平成13年	2001			

I Hは、東 地区・・・北海道・東北・関東地区(15都道府県)

中 地区・・・北信越・東海・近畿地区(15府県)

西 地区・・・中国・四国・九州地区(17県)

のローテーションで9年(中・西)に1回の開催。

第26回全国高等学校アーチェリー選手権大会について

競技は団体競技予選と個人競技決勝はハーフラウンドで実施、団体競技の決勝ラウンド（準々決勝、準決勝、決勝）は50m 9射（3射3回）の行射で行なう。

順位は団体競技は3名の合計得点、個人競技は72射の合計得点をもって決定する。

団体競技予選通過は上位24チームとし、同得点の場合は個人得点の上位者の属するチームを上位とする。

決勝ラウンドの組み合わせおよび的番号は次のようにする。

準々決勝

ブロック	A				B				C			
予選順位	1	12	13	24	2	11	14	23	3	10	15	22
的番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ブロック	D				E				F			
予選順位	4	9	16	21	5	8	17	20	6	7	18	19
的番号	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24

準決勝

ブロック	X				Y				Z			
準々決勝	A 1	A 2	F 1	F 2	B 1	B 2	E 1	E 2	C 1	C 2	D 1	D 2
的番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

決勝

準決勝	Z 1	Y 2	X 1	X 2	Y 1	Z 3
的番号	1	2	3	4	5	6

決勝ラウンドにおける同点の場合は、50mの距離において同一メンバーによる3射1回のシュートオフにより確定する。

選手交代は4名のエントリー選手の中から行ない、申し出が無い場合は記載順に3名が

出場選手とみなされる。(交代は団体予選、準決勝の前日午後4時までに競技本部に申請し承認を得る)

行射

団体予選、個人決勝は1標的同時2名の2立ち(A、B、C、D)とし、決勝ラウンドは、1標的同時3名の1立(A、B、C)とする。

試射

決勝ラウンドの試射は、競技開始前に3射1回実施する。

得点記録

得点記録は相互採点方式とし、得点記録員が記録カードに記載する。

決勝ラウンドは審判員による記録方式とし、チーム得点を得点ボードに表示する。

*参 考

競技日程

日 程	期 日	時 刻	摘 要	
	8月1日(日)	9:00~10:00	審判会議	
		10:30~11:30	監督会議	
		13:00~16:00	弓具検査/公式練習	
1日目	8月2日(月) 団体予選 個人決勝	8:30~9:15	種目別開会式	
		10:00~12:00	男子50m・36射	
		13:00~15:00		女子50m・36射
2日目	8月3日(火) 団体予選 個人決勝	9:30~11:30	男子30m・36射	
		12:30~14:30		女子30m・36射
		15:20~15:50	個人競技表彰式 予選通過校発表	
3日目	8月4日(水) 団体決勝 ラウンド 準々・準決・決勝	9:00~9:30	男子準々決勝 50m・9射	
		9:40~10:10		女子準々決勝 50m・9射
		10:30~10:50	男女準決勝 50m・9射	
		11:20~11:40	男女決勝 50m・9射	
		13:00~13:45	団体競技表彰式 閉会式	

新・服装規定

競技部 競技委員会 細則
昭和62年2月11日改定
平成 5年3月26日改定

服装規定が本年度の全国大会より改定されます。昨年度とは大きく変更になるところがありますので、よく読んで下さい。

大会参加者における競技用の服装は、チーム内で統一されていること。統一の範囲は、上衣、下衣、帽子、靴、靴下とする。

1、上 衣

学校名は背面もしくは前面に、県名は右腕の袖口に、それぞれ1ヶ所明示しなければならない。なお、いずれも弓具装着時に視認できる位置に表示する。

その他の名称等は表示しないものとする。(その他の名称等には学校名、クラブ等の愛称も含む)

長袖、短袖は同一デザインならば、混在し着用できる。

2、下 衣

競技するのに適した形態で、全体が、白色のクラックスまたはスカートとする。(ジーパン、綿パン、ジャージ等は競技用として認めない。)

3、帽子、靴、靴下

白地のものとする。靴は運動シューズとする。(カジュアル、ダンス、タウン等の競技に適さないと認められるものは使用できない。)

4、その他

(1) チームとは登録選手、マネージャーとする。

(2) 監督が競技場内に立ち入るときは、下衣は白色スラックス、もしくはスカートとし靴は白地の運動シューズとする。

(3) 使用頻度、経年による上衣等の退色等は認める。

(4) 大会の場にふさわしくない服装は認めない。

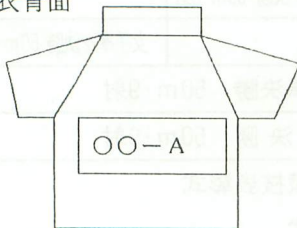
(5) 視認できる部分の商標の大きさは縦、横5cm×5cmとする。

上記の規定外の服装に関しては、審判長および大会実施責任者の裁定に委ねる。

*備考

【競技用ゼッケンの装着位置】

上衣背面



左図のように上衣両脇を結んだ線を上端とする位置に装着する。ただし、このゼッケンにより学校名等の視認が妨げられないようにすること。

主催者側で用意するゼッケンは縦15cm、横25cmです。

尚、本規定は平成5年4月1日より実施するものとする。

大会実施要項に記載すべき内容（各都道府県内大会）

1. 大会名……ア. 平成〇〇年度、第〇〇回
イ. 大会名（兼.第1次予選、第2次予選、最終予選）
2. 期 日……ア. 平成〇〇年〇月〇〇日（ ）～〇月〇〇日（ ）
イ. 平成〇〇年〇月〇〇日（ ）開始 時 分～
3. 場 所……ア. 〇〇高等学校グラウンド、（TEL — — ）
4. 主 催……ア. 〇〇県教育委員会、〇〇市教育委員会
イ. 〇〇県高等学校体育連盟
5. 主 管……ア. 〇〇県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
イ. 〇〇県高等学校アーチェリー連盟
6. 日 程……ア. 開会式、競技開始、競技終了、表彰式（時間明示）
7. 参加資格……1) 全日本アーチェリー連盟ならびに全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部に生徒会員登録する高等学校生であること。
2) 学校長の出場許可があり、当該高等学校教員が引率してくること。
3) 年齢は、4月2日を起算日とし19才未満の生徒とする。
4) チーム編成において、全日制課程、定時制課程、通信制課程の生徒による混成は認めない。
8. 参加制限……1) 参加制限内容の明示
2) ”
3) 参加申込み後のメンバー変更は認めない。
9. 競技規定……平成〇〇年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適応する。
 - 1) 競技種目
 - a. F I T A 〇 〇 〇 〇 ラウンド競技とし、学校対抗・個人戦を実施する。
 - b. 学校対抗（団体の部）は、各校上位3名の得点を合計し成績決定する。
 - c. 学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。
 - 2) 競技方法
 - a. 各距離とも1標的1名で、A・B・Cの3立制で実施する。
 - b. 試射は、ABC. ABCの3射×12回の6射以内を最長距離で実施する。
 - c. 行射はABC/CAB/BCAの順で、3射毎に得点記録・矢

取りを繰り返す。

3) 得点記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱いとし得点を認めない。

- a. 的中する矢の得点判読と記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称し、同標的を使用する他の競技者がシートに記録を記入する。
- b. 同標的を使用する全競技者が、相互にローテーションして的中得点の呼称とシート記入の確認者となって、得点記録を実施する。
- c. 得点判読・誤記入等で疑義がある場合には、審判員の判断をおおぎその判定を最終のものとする。

10. 服装規定…… 開・閉会式および競技中の服装は、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の通りとする。

11. 表彰

12. 参加費用

13. 連絡事項

14. その他

プログラム作成の基準について

I. 目的

各県が作成するプログラムの記載内容を統一するとともに、相互の連携を以て組織の充実と地域編成を推し進めるため、この基準を定める。

II. 対象

加盟各都道府県の高等学校生徒を対象とする競技会プログラムとし、出来るかぎり速やかに対応すること。

III. 作成基準（次の通りとする。）

1. 内容

県内における高等学校アーチェリー競技会に相応しい掲載内容とする。

（広告は努めて掲載しないことが望ましい。）

2. 規格等

ア) 規格 B-5判サイズ、紙質：中質紙

イ) 様式 横書き（縦左とじ：右山折り返し）

ウ) 書式 手書き・タイプ印刷等

IV. 掲載内容等（次のとおりとする。）

① [おもて 表紙]

- 1) 大会名
- 2) 期日・会場名
- 3) 主催・主管
- 4) 参加校数
- 5) 大会・競技役目

② [表紙みかえし] = (表紙裏)

- 1) 競技日程
- 2) 式典次第
- 3) 参加校顧問名・出場選手数一覧表（男女別）

③ [掲載内容等の順]

- 1) 栄光のあゆみ（過去の成績）…… P. 1
- 2) 大会記録・県高校記録
- 3) 参加資格・制限…………… P. 2
- 4) 競技規定
 - ア. 競技種目
 - イ. 競技方法
 - ウ. 得点記録の方法

④立順組合せ一覧表（男女別）…………… P. 3～

⑤成績表…………… P. 3最終頁

（作成にあたっては、以下を参照のこと。）

① [表 紙]

大 会 名

平成 年度
 ○○県高等学校□□アーチェリー競技会
 (兼. 全国高等学校選手権△△予選会)

□□…春季・秋季・県民
 △△…1次・2次・最終

期 日 平成○○年○月○○日 () ~ ○月○○日 ()
 会 場 名 ○○高等学校グラウンド (○○市民アーチェリー射場)
 主 催 ○○県教育委員会 ○○県高等学校体育連盟
 後 援 上部団体 (県教委・県高体連の指導に従うこと)
 主 管 ○○県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
 参加校数 男 子 ○○校 ○○○名
 女 子 ○○校 ○○○名

大 会 役 員

大会 会 長 (高体連会長 ○ r 協会会長)
 大会 副 会 長 (高体連副会長 ○ r 協会副会長)
 大会 委 員 長 (専門部部長 ○ r 協会理事長)
 大会 委 員 (専門部副部長 ○ r 協会副理事長)

競 技 役 員

競技委員会 (専門委員長)
 競技副委員会 (専門副委員長)
 総 務・式典表彰・広 報 係・救 護 係
 審 判 長・審 判 員
 射 場 長・計 時 係・計 測 係・会 場 係
 本 部 記 録・記 録 係
 ・記 録 通 報 (本連盟へ競技会記録を報告する責任者)

② [表紙みかえし]

競技日程 ○月○○日 ()
 開 会 式 ○○時○○分~
 競 技 開 始 ○○時○○分~ (学校対抗) (個人戦)
 競 技 終 了 ○○時○○分
 閉 会 式 ○○時○○分~

式典次第

<p>[開 会 式] 選手集合・整列</p> <p>1. 開 会 宣 言 2. 優 勝 杯 返 還 3. 大 会 会 長 挨 拶 4. 審 判 長 注 意 5. 選 手 宣 誓 6. 閉 式 通 告</p> <p>選手退場・解散</p>	<p>[閉 会 式] 選手集合・整列</p> <p>1. 開 式 通 告 2. 成 績 発 表 3. 表 彰 4. 審 判 長 講 評 5. 大 会 会 長 挨 拶 6. 閉 式 通 告</p> <p>選手退場・解散</p>
--	--

参加校の顧問名・出場選手数一覧表（男・女別計）…参考様式

学 校 名	男 子		女 子		合 計		顧 問 名
	団体	個人	団体	個人	団体	個人	

③ [過去の成績]（各年度・回数別に）参考様式

男女別 団体 優勝校名・記録 [得点合計（上位3人の得点内訳）]

” 個人 優勝者名・記録 [得点合計（50m・30mの得点内訳）]

年	回	性	団 体	個 人
**	1	男	○ ○ 高1930 (660.640.630)	○○○○（**高）650 (610.640)
		女	◇ ◇ 商高1870 (630.630.610)	◇◇◇◇（++高）640 (610.630)
++	2	男		
		女		
++	3	男		
		女		

④ [大会記録]

[団体男子]

○ ○ 高 1 9 3 0

(第○○回大会)

◇◇ ◇◇660 (320.340)
□□ □□640 (310.330)
△△ △△630 (315.315)

[団体女子]

○ ○ 高 1 8 7 0

(第○○回大会)

◇◇ ◇◇635 (310.325)
□□ □□620 (300.320)
△△ △△615 (300.315)

[個人男子]

△△ △△ (□□高) 645 (310, 335)

(第〇〇回大会)

[個人女子]

△△ △△ (□□高) 635 (310, 325)

(第〇〇回大会)

県高校記録

[団体男子]

◇◇ 高 1931 { ◇◇ ◇◇651 (320, 331)
□□ □□645 (315, 330)
△△ △△635 (315, 320)

(第〇〇回大会)

[団体女子]

◇◇ 高 1880 { ◇◇ ◇◇630 (310, 320)
□□ □□635 (310, 325)
△△ △△615 (305, 310)

(第〇〇回大会)

[個人男子]

〇〇 〇〇 (◇◇高) 680 (330, 350)

(第〇〇回大会)

[個人女子]

〇〇 〇〇 (◇◇高) 650 (310, 340)

(第〇〇回大会)

⑤ [参加資格]

- 1) 高等学校に在籍する生徒で、平成 年度「全日本アーチェリー連盟」に生徒競技者登録を完了したものであること。
- 2) 年齢は4月2日を起算し、18才未満の生徒とする。ただし、同一学年での出場は1回限りとする。

参加制限

⑥ [競技規定]

平成〇〇年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適用する。

1. 競技種目

- 1) FITAハーフ・ラウンド競技とし、学校対抗・個人の部を実施する。
- 2) 学校対抗(団体)の部は、各校上位3名の得点を合計し成績決定する。
- 3) 学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。

2. 競技方法

- 1) 各距離とも1標的1名で、A・B・Cの3立制で実施する。
- 2) 試射は、ABC.ABCの3射×2回の6射以内を最長距離で実施する。

3) 行射の順序は、各距離ともABC矢取り、CAB矢取り、BCA矢取りの順とし
3射毎に得点記録、矢取りを繰り返し行う。

4) 立ち遅れ、立ち残りは指導警告とし、度重なる警告は失格処置とする。

3. 記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告な
らびに自己記入は、全て失格矢の取扱としこの得点を認めない。

* 大会実施時の要領（参考表記）

① 的中する矢の得点帯の判読と記録記入は、その矢を所有する競技者以外の者が
全てを呼称（判読）し、同標的を使用する他の競技者が高得点が高得点から順に、
スコアシートに記録を記入する。

（例：ゼッケンAの選手は、ゼッケンBの選手の的中矢の得点を判読し、ゼッケン
Cの選手が、スコアシートへ記録記入を行う。）

② 同標的を使用する全競技者が相互にローテーションし、的中得点の呼称とスコ
アシートの記入と確認を行って得点記録を実施する。

③ 標的の的中孔×又はL印は、使用する選手側で記入を実施すること。

4. 服装規定

開・閉会式および競技会ともに、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制
定する服装規定の範囲とする。

⑦ [立順組合せ] 一覧表（男女別）…参考様式

（男子の部）

校名	ゼッケン NO	選手名	学 年	得 点		個 人		団体合計 (順位)
				50m	30m	合 計	位	
○ ○ ○ 高校	1-A							_____ (順位) _____
	2-A							
	3-A							
	4-A							
△ △ △ 高校	1-B							_____ (順位) _____
	2-B							
	3-B							
	4-B							

⑧ [成績表]

第〇〇回 高等学校〇〇アーチェリー競技会

成 績 表

92. . .

[団体男子]

於：◇◇高校

順位	学 校 名	得 点	得 点 内 訳		
			選 手 名	50m	30m
1					
3					

[個人男子]

順位	選 手 名	学年	学 校 名	得 点 内 訳		
				50m	30m	TOTAL
1						
2						
3						

その他事項

- 1) 既に加盟する高体連が、プログラムの作成を規定する場合には、その規定を優先し指示事項に従うものとする。ただし、上記に規定する項目・内容等を順不同であっても網羅記載すること。
- 2) 未だプログラムの作成基準を定めないその他の都道府県においては、上記に記載する項目・内容順にプログラムを編集作成すること。

注意事項

- 1) 大会の主催・後援等の共催申請は、早目に関係機関・団体に申請し、編集製作時には共催名義の了解を得ておくこと。
- 2) 大会役目・競技役員の委嘱は早目に作成し、各役員の所属する勤務先の直属上司宛に、2週間前までには発送し依頼しておくこと。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約

第 1 章 名 称

第 1 条 本部は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部と称する。

第 2 条 本部の事務局は部長指定の学校に置く。

第 2 章 目 的

第 3 条 本部は全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」と称する）規約第 3 条に基づき、高等学校におけるアーチェリー競技の健全な育成発展を図ることを目的とする。

第 3 章 事 業

第 4 条 本部は第 3 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 全国大会開催に関する事項の審議並びに執行。
- (2) アーチェリーの普及並びに競技力の向上に関する事項。
- (3) アーチェリーの講習及び調査研究。
- (4) 関係団体との連絡。
- (5) その他目的達成に必要な事項。

第 4 章 組 織

第 5 条 本部は全国高体連規約第 6 条に基づき、各都道府県アーチェリー専門部をもって組織する。

第 5 章 役 員

第 6 条 本部は次の役員を置く。

- | | | | | | |
|---------|-------------|---------|-----------|---------|-----|
| 1. 部 長 | 1 名 | 2. 副部長 | 若干名 | 3. 委員長 | 1 名 |
| 4. 副委員長 | 若干名 | 5. 常任委員 | 9 名 + 若干名 | | |
| 6. 委 員 | 各都道府県より 1 名 | 7. 監 事 | 2 名 | 8. 事務局長 | 1 名 |
- (2) 本部は顧問を置くことができる。

第 7 条 役員の任期は 2 年とする。但し、再任は妨げない。補欠によって就任した役員

の任期は前任者の残任期間とする。

第8条 本部の役員は校長、教諭より選出する。但し、顧問を除く。

- (1) 部長及び副部長は委員の推薦により、全国高体連理事会の承認を得て、部長これを委嘱する。
- (2) 常任委員は全国各地域(北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州)の部会において選出された1名と若干名の推薦者を部長これを委嘱する。
- (3) 委員は各都道府県高体連アーチェリー専門部より1名を選出する。
- (4) 委員長及び副委員長並びに事務局長は常任委員会にて選出し、委員会にて承認する。
- (5) 監事は委員会で選出する。
- (6) 顧問は委員会で推挙することができる。

第9条 役員の仕事及び構成は次のとおりとする。

- (1) 部長は本部を代表し、会務を統轄し全国高体連理事会に出席する。
副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。
- (2) 常任委員は常任委員会を構成し、本部の重要事項を企画立案するとともに委員会の承認を得てその執行に当たる。
- (3) 委員は委員会を構成し、本部の重要事項を審議決定する。
- (4) 監事は本部の会計を監査し、その結果を委員会に報告する。
- (5) 顧問は本部の組織運営について委員会並びに常任委員会の諮問に応ずる。

第 6 章 会 議

第10条 委員会は年1回部長が召集し、次の事項を審議する。但し、部長が必要と認めた場合または委員の1/3以上から会議の目的事項を示して請求があった場合は、速やかに委員会を召集しなければならない。

(1) 会議では次の事項を審議する。

- ア. 事業報告並びに計画 イ. 決算並びに予算
ウ. 役員を選出 エ. 規約の改正 オ. その他の重要事項

第11条 常任委員会は必要に応じ、部長がこれを召集する。常任委員は常任委員会の開催を要請できる。

第12条 委員会及び常任委員会は総会の $\frac{1}{2}$ 以上(委任状を含む)の出席がなければ開くことができない。全ての会議は部長が議長となる。

第 7 章 専門委員会

第13条 本部の事業遂行のため、各種の専門委員会を設けることができる。

- (1) 専門委員会の名称・目的及び委員は委員会の決議を経て部長が定める。
- (2) 専門委員会の規定は別にこれを定める。

第 8 章 事務局

第14条 本部に事務局をおく。事務局の規定は別にこれを定める。

第 9 章 規約の変更

第15条 本部の規約は委員会において、委員の $\frac{2}{3}$ 以上の同意を得て変更することができる。

第 10 章 会 計

第16条 本部の経費は補助金・助成金その他の収入によってこれをあてる。

第 11 章 付 則

第17条 規約の施行については必要な事項は委員会の議決を経て部長が定める。

第18条 本規約は平成1年2月11日より施行する。

総務委員会規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき総務委員会(以下本委員会と称する)を設ける。

第2条 本委員会は次の事業を行なう。

1. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第4条の事業に必要な資金を調達すること。
2. 優秀選手の表彰に関すること。
3. 関係功労者の表彰に関すること。
4. 規約改正に関すること。
5. 機関誌の発行に関すること。

第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。

1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
2. 部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。

第5条 委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、本委員会の承認を受ける。

第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

昭和60年8月10日一部改正

平成元年7月27日一部改正

平成4年7月31日一部改正

競 技 委 員 会 規 程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき競技委員会(以下本委員会と称する)を設ける。

第2条 本委員会は次の事業を処理する。

1. 競技会に関する基本方針を確立すること。
2. 全国高等学校アーチェリー選手権大会および選抜大会の実施方法その他の重要事項を審議すること。
3. 本専門部関係の競技会の調整をはかること。
4. 各競技会の記録整理および認定保存をはかること。
5. その他競技に関する必要事項。

第3条 本委員会は、次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じ臨時の委員を置くことができる。

1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
2. 部長が常任委員の中から指名する若干の委員。

第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。

第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、本委員会の承認を受ける。

第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

昭和60年8月10日一部改正

平成元年7月27日一部改正

平成4年7月31日一部改正

審判委員会規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき審判委員会(以下本委員会と称する)を設ける。

第2条 本委員会は次の事業を処理する。

1. 競技会への審判員派遣に関する基本方針を確立すること。
2. 審判員養成および研修事業に関すること。
3. 審判資格修得および更新に関すること。
4. その他、競技規則および審判に関する必要な事項。

第3条 本委員会は、次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。

1. 全国9地区(ブロック)の審判委員会委員長および専門部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。
2. 委員会で推薦された若干名の委員。

第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。

第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、本委員会の承認を受ける。

第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は平成元年7月27日より施行する。

平成4年7月31日一部改正

強化委員会規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき強化委員会(以下本委員会と称する)を設ける。

第2条 本委員会は次の事業を処理する。

1. 強化ならびに普及活動に関する計画立案と、その推薦および指導に関すること。
2. 国際競技等に代表選手を派遣すること。
3. 指導者の養成および活動に関すること。
4. その他、強化、普及に関する必要な事項。

第3条 本委員会は、次の委員をもって組織する。

1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
2. 部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。

第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、本委員会の承認を受ける。

第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日より施行する。

平成元年7月27日一部改正

平成4年7月31日一部改正

事 務 局 規 程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第14条にもとづき事務局に関わる規定を定める。

第2条 事務局は次の事業を処理する。

1. 全国高等学校体育連盟との連絡等に関すること。
2. 各大会における関係機関への連絡等に関すること。
3. 全日本アーチェリー連盟と各都道府県アーチェリー協会（連盟）との連絡等に関すること。
4. 各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部との連絡に関すること。
5. 会員登録に関すること。
6. その他部長が指定する事項を処理する。

第3条 事務局には次の職員を置く。

事務局長 1名 事務員 若干名

第4条 事務局長は、事務局を統轄し、事務局員を指導監督する。

第5条 事務局員の数並びにその任命は常任委員会の承認を得て事務局長が行う。

第6条 事務局員は、事務局長の命を受け、本部の事務を処理する。

第7条 事務局長の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

附則 この規程は平成元年7月27日より施行する。

平成4年7月31日一部改正

アーチェリー専門部表彰規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下専門部と称する）では、表彰に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し表彰する。

第2条 この規程は全国高等学校体育連盟アーチェリー競技の普及振興に功績があった者等に対し表彰を行うとともに、全国高等学校体育連盟表彰規程の被表彰者の推薦母体に資することを目的とする。

第3条 前条に定める被候補は、次の各号から推薦するものとする。

1. 本専門部長・専門委員長・専門部役員。
2. 各都道府県専門部長・専門委員長。
3. その他。

第4条 表彰者の選考は部長・副部長・委員長・副委員長・事務局長があたり、常任委員会の承認を受けるものとする。

第5条 表彰は、常任委員会または全国高等学校アーチェリー選手権大会において行う。

第6条 本規程表彰者推薦のための基準は次の通りとし、重複表彰はしない。

1. 本専門部長・専門委員長・専門部役員。
 - 1) 専門部役員については、3期（6年）以上とする。
2. 各都道府県専門部長・専門委員長。
 - 1) 専門委員長については6年以上とする。
3. その他、特に功績のあった者。

第7条 推薦手続きは毎年4月中旬・10月中旬までに本専門部事務局宛に提出する。

第8条 経費は本専門部一般会計より支出する。

附則 この規程は昭和58年8月1日より施行する。

平成元年7月27日一部改正。

平成3年7月25日一部改正。

アーチェリー専門部慶弔規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「専門部」と称する）では、慶弔に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し敬意を表わすことができる。

第2条 その基準と範囲は次のとおりとする。

1) 慶事に関して

ア) 功績者および関係役員等が、他からの榮譽を称えられた場合。

2) 弔事に関して

ア) 功績者および関係役員等に不幸が生じた場合。

3) 範囲

ア) 記念品または弔慰金等およびこれらの電文とする。

第3条 その他、この規程に定めない特別の場合については、常任委員会の承認を得て敬意を表すことができる。

ただし、緊急の場合は部長がこれを支出し、常任委員会に報告・承認を得るものとする。

第4条 経費は本専門部一般会計より支出する。

附則 この規程は、平成2年4月1日より施行する。

連絡先および口座番号

1. 事務局

(登録担当)

〒153 埼玉県大宮市堀ノ内1-615 大宮開成高校内

TEL 048-641-7161

FAX 048-647-8881

2. 競技部

(記録登録)

○大塚敬輔 〒856 長崎県大村市森園町1079-3

県立大村工業高校機械科内

TEL 0957-52-3773 内線45

FAX 0957-52-3773

3. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局の口座

(銀行名) あさひ銀行大宮支店 (店番369)

(預金種目・口座番号) 普通預金 2547079

(口座・代表者名) 全国高体連ア専事務局 宮崎 利帳

4. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部総務の口座

(銀行名) 東海銀行覚王山支店 (店番) 264

(預金種目・口座番号) 普通: 161-215

(口座・代表者名) 全国高校アーチェリー 田中康彦

5. 斡旋物資申し込み先

〒462 名古屋市北区鳩岡2丁目18番1号

ミズノ株式会社 名古屋支社

第一事業部 中島康善
マネージャー

TEL 052-917-4511

FAX 052-917-4519

あ と が き

会報の第7号をお届け出来ますことをうれしく思います。

昨年度も、加盟校の増加があり、高校アーチェリーの着実な進展がみられました。また、長野県が県高体連に加盟しまして、全国で31都道府県になりました。10数県の頃から知っていますが、我々のアーチェリー専門部も随分と大きく成長したものだ、しみじみとしてきます。これも、全国の先生方のお力によるものだと思います。

さて、今年是我々の組織が20数年来熱望してきた「インターハイ」に初めて参加する記念すべき年です。全国選手権大会は25回を重ねましたが、過去には、同一期日内では開催してはならないとか、全国高体連のマークを使用してはならないとか、色々な悔しい思いもしてきました。しかし、今年からは晴れて同一会場での開催ができますことは感無量です。これも、松崎部長・薮内委員長をはじめとする役員の方々の地道な活動のおかげだと思います。これからは、他競技に恥じないよう、みんなで努力して運営にあたらなければならないと思います。

ところで、「会報」というものは不易な面と、流行の面とを併せ持っています。不易な面は、容易に変えることが出来ません。例えば、学校登録一覧であったり、大会記録や規約のページなどです。しかし、流行の部分すなわち学校紹介や優勝校のページは年々新しく入れ替わります。素晴らしい「会報」にするために、皆様の斬新な企画をお知らせ下さい。編集部でも一校あたりの配布部数を去年よりも多くしまして、監督も部員も校長先生もみんなに読んで頂きたいと思って広告取りに頑張ります。皆様のご協力をお願いいたします。

最後に『基本射形の考え方と注意点』と題しまして、特別寄稿を全日本アーチェリー連盟強化部の広瀬明氏に執筆いただきました。各学校の指導計画の参考に使っていただければ幸いです。紙面をお借りしまして広瀬氏にお礼申し上げます。

長くなりましたが、次号に向けて皆様方の多数のご投稿、ご意見をお寄せ頂きまして、充実した会報にしていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。 (吉田)

発行日 平成5年4月

編集 総務委員会

発行所 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

事務局 〒330 埼玉県大宮市堀ノ内1丁目615

大宮開成高校内 (TEL048-641-7161)

(FAX048-647-8881)

印刷所 (株)シバタプロセス印刷

〒526 長浜市神照町499-1

TEL (0749) 63-6860(代)

日本の旅・世界の旅
旅のご相談は

 **近畿日本ツアーリスト株式会社**

彦根支店 彦根市中央町35 大菅第2ビル ☎0749-22-3203

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS



確実なグリップを生む本格派。

〈ランバード〉アーチェリーシューズ
36KA-8250 ¥10,000

- 甲/人工皮革(クラリーノエフ) ● 底/VCRラバーソール
- 製法/セメント式 ● サイズ/22.0-28.0

芝のグラウンドでもグリップ性、ストップ性を発揮するVCR配合ラバーソールを採用。
アッパーにはソフトで足あたりが良く、耐久性・耐水性にすぐれた人工皮革(クラリーノエフ)を採用。

ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は「ミズノお客さま商品相談センター-MUSIC」 ● 東京 TEL.(03) 233-7110 ● 大阪 TEL.(06) 454-5001

RunBird
ATHLETIC FOOTWEAR

